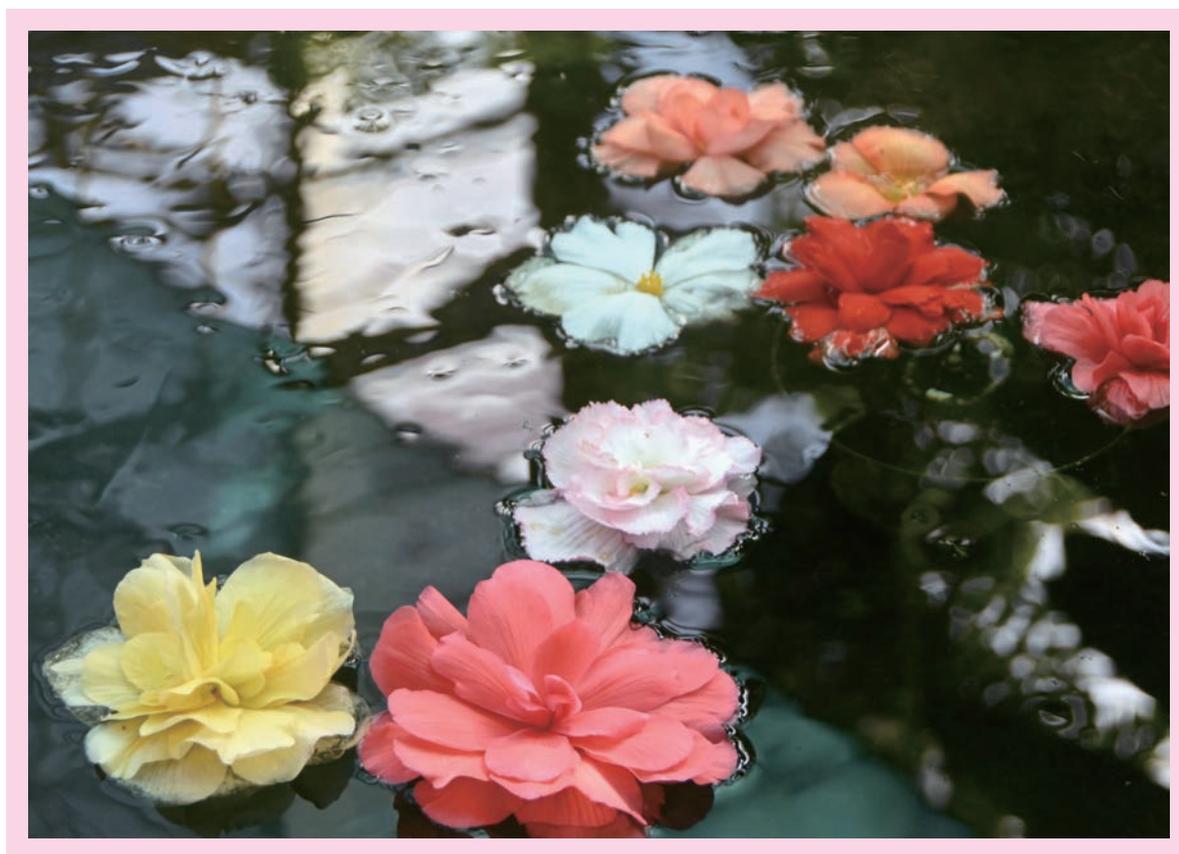


兵庫歯科衛生士学院誌

Journal of Hyogo Dental Hygienist College

2024
Vol. 47



兵庫県歯科医師会附属
兵庫歯科衛生士学院

兵庫歯科衛生士学院誌

第47巻 (2024)

も く じ

巻頭言 歯科衛生士の役割と重要性	清水谷公成	1
歯科衛生士の業務の拡大とそこに求められるもの	橋本 芳紀	2
今後の兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院の在り方について	前田多津子	3
茶髪や金髪は歯科衛生士を目指す学生として相応しいか!?	大矢 卓志	4
副学院長に就任して思う事	萩田 雄紀	5
副学院長就任によせて	西田 真也	6
COVID-19 感染症 5類移行を経て	肥塚美奈子	7
<学術論文>		
口腔癌に対する放射線治療	清水谷公成	8
<歯科衛生士会・むつみ会>		
コロナ禍の3年間とこれからの歯科衛生士に求められること	高橋 千鶴	11
兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院同窓会 「むつみ会」活動報告	竹内 知恵	12
<講師の抱負・紹介>		
高齢者歯科学を担当するにあたり	砂治 国隆	13
講義担当にあたって	大森 雄司	14
歯科薬理学の講義を担当するにあたって	笈 康正	15
歯科衛生学科講師着任のご挨拶	武田 大介	16
衛生学・公衆衛生学を担当するにあたって	山下 淳也	17
解剖学②の講義を担当するにあたって	山本 信祐	18
<専任教員>		
令和5年度 臨床実習指導歯科衛生士打合せ会開催	角田安佳梨	19
<学生生活>		
学院全体交流会を終えて	今井 志穂	20
学院全体交流会を終えて	稲盛 倅菜	21
学業奨励賞をうけて	佐山 優貴	22
学業奨励賞をうけて	仁王美菜子	23
社会人経験のある新入生との座談会		24
兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院に入学して	和 里莉	28
兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院に入学して	鈴木美弥姫	29
3年生指導を終えて	横山 そら	30
1年次研修旅行を終えて	平良 花奈	31
プレ臨床実習で学んだこと	貴田日向葵	32
プレ臨床実習で学んだこと	増田 小桜	33
歯と口の健康週間を終えて(幼稚園班)	林根 凜	34
歯と口の健康週間を終えて(小学生班)	池田 綾乃	35
歯と口の健康週間を終えて(高齢者班)	初村 優奈	36
歯と口の健康週間を終えて(イベント)	馬本 聖菜	37
2年次研修旅行を終えて	守田 歩未	38
国際ソロプチミスト「夢を生きる女性のための教育訓練賞」をいただいて	久代 道子	39
1年生指導を行って	山田 陽菜	40
クリニカルトレーニングセレモニーを終えて	平郡 柚颯	41
臨床実習で学んだこと(センター)	小道 由依	42
臨床実習で学んだこと(矯正)	青山 澄香	43
臨床実習で学んだこと(開業医)	宮崎 涼	44
臨床実習で学んだこと(病院・口腔外科)	山下 実来	45
市民救命士講習を受講して	中山 愛香	46
<国家試験合格記>		
国家試験合格記	井町 優花	47
国家試験合格記	土居 恋華	48
<活躍中の卒業生>		
歯科衛生士としての春夏秋冬	友田 直美	49
わかりやすい講義・説明を目指して	善茂砂 絢	50
学院の動き		51
学院運営協議会記録		54
郡市区会紹介		56
あとがき		58



巻頭言

歯科衛生士の役割と重要性

学院長 清水谷 公成

2023年6月末の一般社団法人兵庫県歯科医師会の役員改選に伴い、新たに会長に就任された橋本芳紀先生からご指名を受け、兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院学院長に着任いたしました清水谷公成（しみずたに きみしげ）と申します。ちなみに創立以来、11代目の学院長になります。浅学菲才な若輩者ですが、伝統ある本学院のさらなる発展のため微力ながら精進してまいりたいと存じますので、ご指導、ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

本学院の歴史は兵庫県歯科医師会が1967年に歯科技工士養成校として開校し、3年後の1970年に歯科衛生士養成のため、歯科衛生学科を併設したことに端を発します。兵庫県下で最も伝統ある専門学校としてこれまでに約4,000名の卒業生を世に送り出してきました。

一方、日本における歯科衛生士の歴史についても、少し触れてみたいと思います。歯科衛生士という資格は、アメリカで1913年に誕生しました。

1919年、アメリカに留学していた歯科医の岡田 満氏が、アメリカにそのような資格があることを日本に伝えたことで、知られるようになりました。日本における歯科衛生士の始まりと言っていいかもしれません。当時はまだ、国家資格として定められていたわけではなく、民間の資格にすぎませんでした。また、どのような役割を担えば良いのかも、あいまいであったため、ニーズは決して高くなかったと言われています。そのため、現在では歯科衛生士が担当する職務も、当時は歯科医が行っていたと伝えられています。日本における歯科衛生士は、1948年に制定された歯科衛生士法に基づく国家資格となっています。

当時歯科衛生士の役割は、歯と口腔内の健康を守ることであり、公衆衛生の向上への貢献が期待されていました。1955年になると、歯科衛生士の役割に、（それまでは歯石を除去して歯周病を予防するといった口腔内ケアの業務などに限定されていましたが）歯科診療の補助が追加されました。

そのことが、保健所勤務にとどまらず、歯科が職域となるなど、歯科衛生士の活動の幅を広げることになりました。また、年代を経るにつれ、歯磨きの大切さや食生活のあり方を伝える役割も担うようになり、1989年には、歯科保健指導が追加され、歯科衛生士の重要性はさらに大きくなります。このように歯科衛生士に、求められてきたのは『歯と口腔内の健康を守ること』だと思います。

また、公衆衛生の向上のためには予防措置をいかに講じるかが大切であり、その指導もまた、歯科衛生士の仕事として認められるようになっていったのです。今日、予防への意識が高まり、そのために歯科に通う人も増えています。

口腔内のバランスを保ち、歯や歯ぐきを健康に保つことは、歯周病やむし歯などの口腔トラブルを予防する上で欠かせません。最近の研究では、口腔の状態が心臓病や糖尿病、呼吸器疾患などの全身疾患との関連性も指摘されています。歯と口腔の健康を維持するという事は、全身の健康をサポートする重要な要素なのです。歯科衛生士の仕事は、より一層重要性を増してきたのです。本学院の皆さんにもますます期待がかかっているということなのです。



歯科衛生士の業務の拡大とそこに求められるもの

(一社)兵庫県歯科医師会
会長 橋本 芳紀

歯・口腔の健康は、「自分の歯でおいしく食べる」、「楽しく会話する」など、健康で生き生きとした生活を送るための基本となります。また、兵庫県「歯及び口腔の健康づくり推進条例」や政府の「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」に見られるように、口腔の健康が全身の健康や健康寿命の延伸につながり、一人ひとりの健康に寄与できることが広く認められるようになってきています。私たち歯科医療関係者はこのような機運の高まりを受け、より一層日々の診療や歯科保健啓発活動を通じ人々のQOLの向上に努めなければなりません。

歯科衛生士は、従来、専門性の高い知識・技術のもと診療所内で歯科医師を中心とした「チーム医療」の一員として、歯科医師の診療を補助しつつその指示を受けて歯科治療の一部を担当し、う蝕や歯周病を予防するための処置や長期の管理を行ってきました。それは最も基本的な歯科衛生士の仕事なのですが、最近は生涯を通じて歯の健康づくりや口腔ケアを支援するため、活躍の場は学校や保健所そして介護老人保健施設、居宅など、地域にも大きく広がってきています。また病院においては一般歯科治療や口腔外科治療の補助だけでなく、周術期などの口腔機能管理を担うようになってきています。

歯科保健指導は、幼児期から高年期までの各ライフステージにおいて、また健康な人、病気や障がいのある人など、すべての人に必要な支援です。その中で、歯磨き指導を中心とした口腔清掃指導は、セルフケアのスキルアップを専門的に支援する大切な仕事であり、寝たきり者や要介護者などに対する訪問口腔ケアも重視されています。さらに、最近では、高齢者や要介護者のための摂食・嚥下機能訓練も新たな分野として注目されています。

このように歯科衛生士の仕事は拡大し、活躍の場が広がっていることから、日々の勉強や技術の習得が必要であることはいうまでもありません。同時に忘れてはならないのは、患者さんとのコミュニケーションを大切に、寄り添う気持ちや優しい気持ちを置き去りにしないということではないでしょうか。どうしても技術や知識に目が向きがちですが、そのような気持ちを持たなければ、歯科衛生士だけでなく私たち歯科医療関係者ひいては医療関係者の仕事は成り立たないのではないかと考えています。科学的な根拠のある事柄を易しく説明をすること、確実な手技を丁寧に行うこと、患者さんの不安を取り除き納得し満足して帰っていただくこと。日々の忙しい業務の中で、この当たり前のことを忘れないことが私たち歯科医療関係者には必要なのではないのでしょうか。

診療所で、また地域でますます重要視され期待される歯科衛生士として、存分に活躍されることを願っています。



今後の兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院の在り方について

(一社)兵庫県歯科医師会
理事 前田 多津子

昨年令和5年、橋本会長より兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院の理事を拝命いたしました。

今まで兵庫県歯科医師会では、学校歯科・財務を担当させていただきましたが学院の担当は初めての事なので、いささか戸惑っております。しかし、学校歯科・財務の経験は、今後学院の理事として大いに役に立つと考えております。今期、本学院は、兵庫県歯科医師会の会館建設問題や少子化問題など大きな課題を抱えております。今後の本学院の在り方を模索し、方向性を清水谷学院長のもと運営協議会の先生方と決断していかなければならないと考えております。問題点の中でも少子化による高校卒業生の人口の減少は著しく、令和6年はここ数年の中では最低人数になると予想されております。令和7年からは少しは増加が見込めるそうですが、5年後には令和6年度と同じぐらいの人数となりそれ以降は減少の一途をたどるといえることです。反面、歯科界における歯科衛生士の需要は年々多くなり、歯科衛生士不足は多くの先生方を悩ませる問題となっております。ここ数年、歯科衛生士を育成する専門学校は神戸市を中心に多数設立されております。それに反して高校卒業生人数は減少の一途をたどっていつているのが現状となっております。令和7年度からは、本学院も男女共学となります。今後の歯科衛生士の育成に関しては既卒者を視野に入れ、できるだけ多くの歯科衛生士の育成を目指していきたく思います。なかでも、安定した仕事を必要としている女性たちに資格を取っていただきたいと考えております。

以前、学校歯科を担当していて本当に悩ましい問題であったのは、多くのむし歯を持っている子供たちの問題です。

近年、ほとんどの小学生・中学生は、むし歯の数が減少してきております。歯科健診でも多くの児童たちはむし歯がない状態なのですが、わずかに数人の児童に多くのむし歯が見受けられます。

新聞でも口腔崩壊児と評されておりましたが、やはり母子家庭の児童が多く、学校でのフッ化物洗口を始めてもらいたいと現在も学校歯科では教育委員会に交渉しております。

一方母子家庭の児童になぜむし歯が多いのでしょうか？

母子家庭の貧困によるものが大きな要因と考えられております。

夫婦世帯の子育て時間に比して母子家庭の子育て時間が圧倒的に少なく、いわゆる時間の貧困によるものも大きく影響していると考えられております。

内閣府研究室の大石亜希子先生の報告書によれば母子家庭の貧困の原因は時間当たりの賃金が低い（これは女性共通）、非正規労働者が多い、年数が経過しても収入は増えない、養育費支払いの不調などが挙げられております。この問題を少しでも解決するには、母子家庭の母親の安定した雇用が必要と考えます。

歯科衛生士は看護師と違い、夜勤もなく安定した勤務体系であり、また現在歯科衛生士不足でありますから、より条件のいい勤務体系の歯科医院を選ぶことができます。母子家庭には自立するための支援金や高等教育訓練促進給付金など多くの支援事業があります。

これらの支援事業を利用し、少しでも多くの母子家庭のお母さま方に歯科衛生士になっていただくための道筋を整え、受け入れてまいりたいと考えております。また、授業を受ける際の、子育て中のお母さまへの配慮も整えようと考えております。

今後本学院は、資格を取る為に頑張ろうと考えている色々な世代の受け入れに力を注ぎ、多くの歯科衛生士を育成してまいりたいと考えております。



茶髪や金髪は歯科衛生士を目指す学生として相応しいか!?

副学院長・学科長 大矢 卓志

これまで約10年間本学副学院長（副校長）を務めさせていただきましたが、この度併せて学科長を仰せつかりました大矢でございます。素より甚だ浅学菲才の身ではございますが、これまでの経験の全てを活かし、本学のため、学生の皆さんのため、尽力してまいる所存です。何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、よく学生の皆さん曰く、「本学の学則は厳しすぎる?!」とのことですが、果たしてそうでしょうか?多くの卒業生・皆さんの先輩方は仰っていますよ。「学生時代は色々注意されて面白くなかったが、卒業して働き出してからその有難味が身に染みる」と。学則やカリキュラムなどで、学生の皆さんにとって不必要なものは何一つありません。全てが、皆さんにとって不可欠であったり、良かれと考えたりしているものばかりです。

学生の皆さんが将来就業の場とする歯科医院は、医療施設全般の中でも、小さなお子さん（乳幼児）から高齢者（100歳を超える方）まで、実に幅広い世代の人々が訪れることが一般的な特徴とされます。学生の皆さんは、そのような特徴を有する歯科医院で、多くの人々（患者さん）に、初対面で瞬時にして心を開いていただかなくてはなりません。間違っても、「この人で大丈夫?」とか「こんな人イヤ!」などとの感情を抱かせてしまっては、その時点で専門職としての土俵にすら上がることはできません。

良し悪しは別として、人にはそれぞれの世代で、共有する肌感覚であったり常識や規範といったものであったりが存在します。例えば、私が幼い頃、日本女性が茶髪や金髪でサッカーボールを蹴り上げることなど、世間一般ではまず考えられないことでした。だから、今では普通に為されていることに対しても、ある人にとってはその人のごく自然な感情として、どうしても違和感や不快感、嫌悪感すら覚えてしまうケースも実際あり得るのです。

先の例は極端としても、日常生活の全般において、自身の在り様が他人にどう映るかは、極めて多面的です。このことを、あらゆる世代に寄り添い支える歯科衛生士を目指す学生の皆さんには、特に肝に銘じておいていただきたいと思います。

さまざまな悩みを抱え、いわばさがるような思いで不特定多数の患者さんが訪れる歯科医院において、初対面で接する歯科衛生士の身だしなみや立ち居振る舞い、挨拶や笑顔がどれほど大切か。いくら強調してもしすぎることはありません。学則や規則などはあらゆるケースを想定し、その最大公約数をカバーするよう配慮しています。本学が「あなたなら大丈夫!」と入学を許可した学生の皆さんなら、一人残らず理解できるはずです。

逆に、身だしなみや立ち居振る舞い、挨拶や笑顔の大切さを素直に、謙虚に理解することさえできれば、山あり谷ありの厳しい3年課程ではありますが、必ずやり遂げることができでしょう。そして、縷々述べた意味で皆さんが首尾よく“歯科衛生士業”をこなすことができれば、それは皆さんが一流の女性たり得る道にも通ずるものと私は考えます。

「決めて良かった!歯科衛生士」、「決めて良かった!兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院」

皆さん自身ですら未だ気づいてはいない大きな可能性に期待しています。頑張りましょう!



副学院長に就任して思う事

副学院長 萩田 雄紀

2023年7月から本校副学院長に就任しました萩田です。

私は神戸市立こうべ市歯科センターという障がい者の治療を主体とした口腔保健センターで17年間障がい者の治療に従事、現在も定期的に出務診療を行っています。神戸市立こうべ市歯科センターでは障がい者の治療だけでなく、学生実習や障がい者施設への歯科健診や口腔保健指導など地域における口腔保健センターとしてのさまざまな役割を担っています。そこで働いている歯科衛生士さんの活躍には、いつも頭が下がるばかりです。勿論、そこでは本学出身の歯科衛生士さんも働いており、皆さん大変活躍しています。今回本学の副学院長に就任して、あらためて、本学に関する説明を受けました。既に学生の皆さんや卒業生の皆さんはご存知と思いますが、本学は兵庫県歯科医師会が運営している県下唯一の歯科衛生士学校になります。また県下の中では最も歴史が古く、それだけ卒業された歯科衛生士数も多いので、現在在籍されている学生の皆さんにとっては、無事国家試験に合格して歯科衛生士の資格を取得した後に相談できるたくさんの諸先輩方がいるという事は心強い限りではないでしょうか。近年の就業歯科衛生士人数は 現在出ている統計年数にバラつきがありますが、令和2年度調査の時点で142,760人となり、国家試験に合格した新しい歯科衛生士の数は年々増加しています。ただ、残念なことに平成29年の歯科衛生士名簿登録者数は283,032人と令和2年度の就業歯科衛生士人数と比べても離職率の高い現状がデータから分かります。離職原因では結婚・出産・育児などの生活の変化、その他、さまざまな原因が考えられますが、既に卒業された歯科衛生士の皆さん、そして、今現在、国家試験を目指して頑張っている学生の皆さん、歯科衛生士という職業は、人々の歯・口腔の健康づくりをサポートする国家資格の専門職であり、①歯の予防処置②歯科診療の補助③歯科保健指導、が主な業務内容として法律で定められています。また近年では、「歯・口腔の健康と全身の健康の関係」にも注目され、ますます歯科衛生士の役割に対する関心度が高まっています。歯科衛生士の活動の場は、歯科診療所や病院が中心ですが、生涯を通じて歯の健康づくりや口腔ケアを支援するため、保育所・幼稚園・学校・保健所・市町村保健センター・企業・そして介護老人保健施設・居宅など、地域にも大きく広がっています。そのため、歯科衛生士を一生の仕事としてライフワークにする人も増えており、国家資格を持つことで、結婚、出産などによる一時的に離職したとしても、再就職に有利な職種でもあり、非常にニーズが高く、経験を重ねる事によってキャリアアップができますので、活動の場も広がり、ご自身の将来的な展望も広げる事の可能な職種だと思います。ですから、本学で頑張って勉強した3年間は必ず自分自身の人生にプラスになりますので、皆さん、これからもご自身の職業に誇りを持って活躍して下さい。



副学院長就任によせて

副学院長 西田 真也

この度、兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院の副学院長を仰せつかりました。ここに就任のあいさつという原稿の依頼を受けて、はや数ヶ月近くが経とうとしています。この間はじめて本学の運営などにかかわってきて思ったこと、気になったこと、言いたいことなどを徒然なるままに書かせていただこうと思います。

私の家内は現在歯科衛生士として一緒に仕事をしていますが、何を隠そうつい4年前に本学を卒業したところです。もともとは看護師をしていたのですが結婚して歯科医院をしっかり手伝いたいということで歯科衛生士になってくれました。3年間娘と同じ年齢の生徒さんたちと学生生活を送るのは、なにかと気苦労が多かったと思います。そして実際にそばで見ていて歯科衛生士になるための勉強、実習の質、量の大変さに驚きました。

いま、本学で一生懸命学んでる生徒さんたちにも毎日の講義、実習をがんばってる話を教員の方から伺うにつけ、生徒さんにはより快適に、学校生活を過ごしてもらえるように微力ながらアイデアを出してより良い学校にしていきたいと思っています。本学は伝統と優秀な教員、国試合格率を誇りますが、一方で他の歯科衛生士養成学校と比べて決定的なマイナス点として（あくまで私見です…）福利厚生施設、特に食堂もしくは購買部がないことが挙げられます。卒業生のみなさんもお弁当を持参したり、短い昼休み時間に実習着を着替えてコンビニに走ったりなどご苦労があったのではないのでしょうか？今から食堂を作ることは実際問題として無理だと思いますが、お弁当などの販売などは検討してはと思います。また、将来歯科医師会館を建て替える際には、食堂とまでは言いませんが、本学学生、職員さんも利用できる購買部を設置してお弁当などの販売をしてもらえればと思います。

年々、18歳人口は減少傾向にある一方、競合する歯科衛生士養成学校が、ここ数年立て続けに開校しました。その影響で本学も生徒数の減少が深刻な問題となっています。いろいろ策は練っていますが、今後の見通しも不透明な部分が多いのが事実です。その対策の一つとして学校生活を少しでも快適になるよう、ランチ難民解消もみんな考えていきたい一つの課題ではと思っています。卒業生の先輩方にも実体験にもとづいたご意見、ご提案をいただければと思います。

また、次年度以降神戸看護専門学校と提携してより専門的な教育、実習を相互で行っていく準備をしています。今後、多職種連携の重要性が高まっていくなか、より実践に即した実習が可能になると期待しています。

国民皆歯科健診が現実味を帯びてきた今日、歯科衛生士の活躍の場はますます広がっていくと考えられます。人数もまだまだ足りていないのが現状です。在校生のみなさんには、学校でしっかり学び、卒業後は即戦力となる立派な歯科衛生士さんになっていただきたいと思っています。そのためにも、微力ながらお手伝いをしていければと思っています。



COVID-19 感染症 5 類移行を経て

教務副主任 肥塚 美奈子

世界中を翻弄し続けた COVID-19 感染症も2023年5月8日、わが国でも遂に感染症法上の位置付けが「新型インフルエンザ等感染症（2類相当）」から5類感染症になりました。感染症法では、感染症について感染力や感染した場合の重篤性などを総合的に勘案した上で1～5類等に分類し、感染拡大を防止するために行政が講ずることができる対策が定められており、今回 COVID-19 感染症が5類へ移行したことにより法律に基づき行政がさまざまな要請・関与をしていく仕組みから、個人の選択を尊重し、国民の自主的な取組をベースとした対応に変わりました。（厚生労働省 健康・医療 HP より引用）

これにより、自ら考え行動できる社会生活を取り戻し始めました。あれ程耳にしていた「ソーシャルディスタンス・3密・クラスター・濃厚接触」といった言葉は、「with コロナ・after コロナ・post コロナ」へとフェーズチェンジし、未知のウイルスを恐れるあまり人との距離を取るばかり考え消極的になっていた生活から、共存することを目指し積極的な生活へと変化しています。このような中、コロナ禍真っ只中に高校時代を過ごした学生たちといえば、最も身近な友人同士とのコミュニケーションを日々繰り返し、心身の成長に必要なさまざまな経験をする場が減少したことから、不安を抱きながらもスクールライフでの会話やふれあいの楽しさ・喜びを再認識しているようです。歯科衛生士を目指すという同じ目標を持ち、共に学ぶ仲間の存在は大きく、今、「感情のコミュニケーション能力」を高め、培っています。これは歯科衛生士となり、患者様への優しさや思いやりなどへ繋がるものだと今後のスクールライフの様子が私たちも楽しみです。

さて現在、臨地臨床実習に大きな影響を受けるようなケースは減少しました。各実習先のルールを遵守することで、病院の歯科口腔外科では直接介助をさせていただき、病棟への周術期の口腔ケアに同行させていただけるようになり、開業医院では、診療補助や予防処置に加え訪問診療へ同行させていただけるようにもなりました。そして、最も難しかった高齢者施設での臨地実習の受け入れはほぼコロナ前の状況に戻りました。これも学生教育に対し、十分にご理解いただいている関係者の皆様がたのご協力があってこそだと改めて感謝申し上げます。

最後に現在本学院は、多職種連携を担う歯科衛生士の養成が急務とされる中、歴史と伝統を守るだけでなく、大変革を要する厳しい状況を迎えています。ますます兵庫県歯科医師会の会員の先生がたにご指導ご鞭撻を賜り、この苦境を乗り越え、再び活気を取り戻せるよう教員一丸となり努力してまいりたいと思います。同時に本学院を長きに渡り支え守ってくださった小村教務主任が令和6年3月で定年退職を迎えられます。バトンを受け取る者として、これまで多くを学び、溢れる愛情の中、共に歩みを進められたことに感謝し、新たな決意を持って邁進したいと思います。そして「兵歯」というバトンを次へ渡せるよう努めてまいりたいと思います。



口腔癌に対する放射線治療

*清水谷 公成

要 約

口腔癌治療に関しては根治性、形態及び機能温存を目的に放射線治療が第一選択される場合があります。口腔器官は咀嚼、嚥下、会話などの重要な機能を果たすため、QOL (Quality of Life) の観点からも口腔癌に対する放射線治療の役割は極めて大きいと考えます。したがって、口腔癌患者に対応するためには、放射線治療の適応と限界を正確に把握しておく必要があります。そこで今回、放射線照射が奏効した口腔癌症例を取り上げて紹介します。

キーワード 口腔癌／放射線治療／組織内照射

1. はじめに

口腔癌患者に関しては根治性、形態及び機能温存を目的に放射線治療が第一選択される場合があります。

一方、口腔癌の治療方針は、主に原発巣の発生部位、大きさ、進展度、頸部リンパ節転移あるいは遠隔転移の有無によって決定されます。従来は多くの患者に対して手術が主体として行われてきました。その理由は形態・機能温存よりも根治性に重きが置かれたからです。しかしながら、口腔器官は咀嚼、嚥下及び会話などの重要な機能を果たすため、QOL (Quality of Life) の観点からも放射線治療の役割は極めて大きいと考えます。したがって、放射線治療の適応と限界を正確に把握し、集学的治療の中でも重要な役割を演じていることを知る必要があります。

2. 口腔癌に対する放射線治療

放射線治療における照射技術は主に外部照射 (External radiation) と密封小線源治療と呼ばれる組織内照射 (Interstitial radiation or Interstitial brachytherapy) に大別されます。外部照射の場合は4 MV のX線または6～9 MeV の電子線が利用され、組織内照射には¹⁹²Ir や¹⁹⁸Au などの核種 (放射線同位元素) が主に利用されます。

外部照射は1回2 Gy (グレイ)、週5回で、総線量30Gy/15回/3週間～40Gy/20回/4週間を目標として投与されます。この場合、照射野にしたがって治療が行われるため、個別化した頭部固定用シェルが作製されます。

これら30～40Gy の線量によって照射野内の粘膜は急性炎症が強度に出現しますが、同時に腫瘍縮小も顕著なため高い完全緩解率 (complete response rate : CR 率) が得られます。完全緩解率とは肉眼的所見及び触診によって臨床的に腫瘍が完全消失した場合を指します。たとえ不完全緩解 (partial response :

* 兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院 学院長

PR)であったとしても、50%以上の腫瘍縮小が得られています。

化学療法としては bleomycin、peplomycin などの抗癌剤が主に利用され、放射線と同時併用されるようになりました。この抗癌剤は放射線効果を増強し、放射線治療の治癒率を高めます。例えば、照射前30分に peplomycin 10mgを静注し、週2回投与で総量40mg程度を放射線と同時併用します。この化学療法併用外部照射による初期治療をわれわれは導入療法と命名しましたが、この導入療法後に CR と判断された例(25例)の10年局所制御率は90%、PR 例(26例)のそれは70%と好成績を得ています^{1,2)}。

以下に、外部照射が奏効した口腔癌症例を供覧します(図1～図5)。

症例1(図1):上顎歯肉癌、64歳、男性、扁平上皮癌、T4N0M0。

治療経過:初期治療として外部照射48Gy/24回と抗癌剤の5Fu 2,000mgが同時併用されました。

治療後2年7ヶ月時点で再発を認めたため、¹⁹⁸Au グレイン粒状線源8個(83Gy)が永久刺入されました。その後の経過は良好で、初期治療から7年3ヶ月の生存を確認しています。

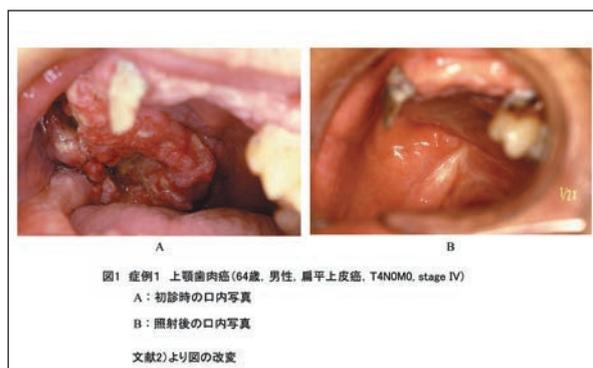


図1

症例2(図2):下顎歯肉癌、77歳、男性、扁平上皮癌、T4N1M0。

治療経過:導入療法として外部照射56Gy/28回と抗癌剤の peplomycin 35mg/7回静注が同時併用されました。その後の経過は良好で、導入療法から10年の生存を確認しています。

症例3(図3):頬粘膜癌、63歳、女性、扁平上皮癌、T2N0M0。

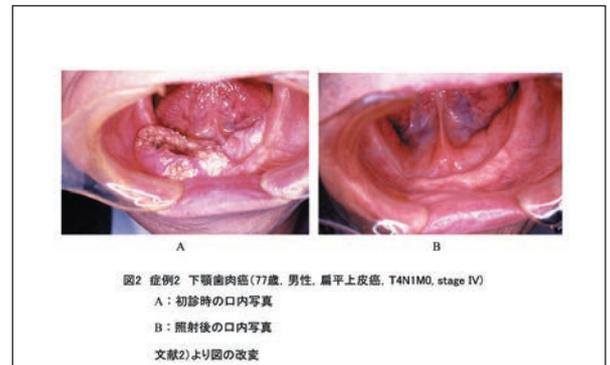


図2



図3

治療経過:導入療法として外部照射30Gy/15回と抗癌剤の peplomycin 45mg/9回静注が同時併用されました。その後の経過は良好で、導入療法から5年の生存を確認しています。

症例4(図4):口底癌、68歳、男性、扁平上皮癌、T2N0M0。

治療経過:導入療法として外部照射30Gy/15回と抗癌剤の peplomycin 45mg/9回静注が同時併用されました。導入療法後3週時点で詰めの治療としての¹⁹⁸Au グレイン粒状線源10個(83Gy)が永久刺入されました。その後の経過は良好で、導入療法から5年の生存を確認しています。

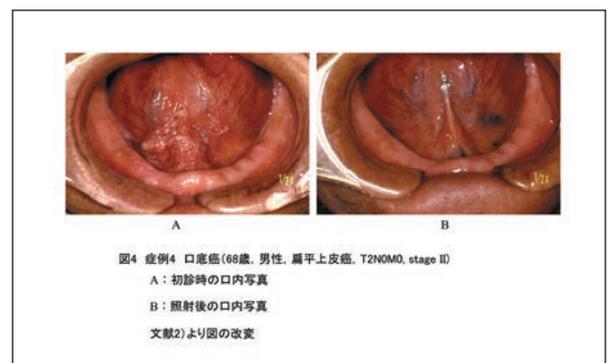


図4

症例 5 (図 5) : 口唇癌、72歳、女性、扁平上皮癌、T2N0M0。

治療経過 : 導入療法として外部照射40Gy/20回と抗癌剤の peplomycin 40mg/4回静注が同時併用されました。導入療法後3週時点で詰めの治療として外科的処置が行われました。その後の経過は良好で、導入療法から9年3ヶ月の生存を確認しています。



図 5

密封小線源治療(高線量率組織内照射)で治療された舌癌症例を供覧します。

症例 6 (図 6) : 舌癌、68歳、男性、扁平上皮癌、T2N0M0、手術拒否例。

治療経過 : 高線量率組織内照射60Gy/10回/8日間が投与されました。初期治療から4年11ヶ月再発傾向なく経過良好です。



図 6

3. まとめ

口腔癌においては、腫瘍形態が表在型、外向型の初期(stage I)及び早期(stage II)歯肉癌や頬粘膜癌に対するペプロマイシン併用放射線治療の効果は高く、一方、舌癌に対しては密封小線源治療(高線量率組織内照射あるいは低

線量率組織内照射)の有用性は高く³⁾優れた治療法であると思われます。(図7)

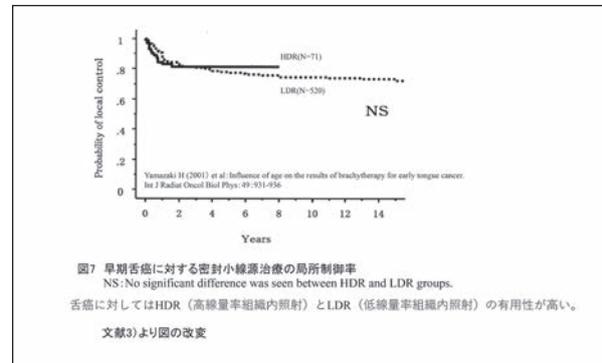


図 7

背景 : 文中の症例はすべて大阪歯科大学附属病院の症例です。大阪歯科大学附属病院における口腔癌患者の多くは大阪大学医学部附属病院(以下、阪大病院と略す)・放射線科との共同研究ということもあって、大半は放射線治療が主軸に行われており、放射線治療単独あるいは抗癌剤併用で功を奏した患者が数多く蓄積されてきました。大阪歯科大学と阪大病院との連携は1972年にさかのぼり、2014年時点(2014年でスキップ)までで42年の歴史があります。阪大病院では外部照射において強度変調放射線治療(IMRT)装置が導入され、X線に強弱をつけて、しかも腫瘍(標的)の形状に合わせてさまざまな方向からピンポイントで照射でき、総線量が66Gy~70Gy相当まで上げられて治療されています。したがって、文中の症例は古い時代の症例(1983年~2000年)で治療方針において最近の症例とは違いがあります。

引用文献

- 1) 清水谷公成(2000): 口腔機能温存の面からみた放射線療法、歯科医学、63巻、3号、227-231
- 2) 清水谷公成(2006): 口腔癌の放射線治療-形態と機能温存を目指して-、日本歯科医師会雑誌、59巻、6号、33-44
- 3) 清水谷公成(2019): 舌癌に対する低線量率組織内照射および高線量率組織内照射、歯科放射線、59巻、2号、66-74



コロナ禍の3年間と これからの歯科衛生士に求められること

* 高橋 千鶴

令和2年から新型コロナウイルス感染症の影響が3年続き、今年5月に「5類感染症」になりましたが、変異株や季節外れのインフルエンザの新たな波の兆しが気になるところです。

この間の歯科衛生士養成機関では、卒業式や入学式への来賓の招待は見合わせておられましたが、令和5年3月11日には、「51回生卒業証書授与式」にご招待を受けました。卒業生とご家族の方々、先生方や関係者の方々は、これまでに経験をしたことのないこの厳しい3年間を乗り越えてこられた強さや卒業生を送り出す安堵感を感じました。何よりも卒業生の艶やかで眩しくはつつとした姿は、社会人になる自信に溢れ頼もしさを感じました。

また、4月10日の入学式にもご招待を受けました。この間の卒業生と新入生との姿に、学院の先生方の専門職を育てる熱い思いや教育力の強さを知ることができました。新入生は、コロナ禍の3年間を高校で学び厳しい状況乗り越えて入学し学生生活が始まり半年が過ぎました。今から3年後の卒業証書授与式が楽しみです。

本会の3年間は、念願であった県下のどの地域に居住していても研修会を受けることができる配信を整備しました。結果、令和4年度の日本歯科衛生士会の第5次研修制度の研修会開催回数は、全国の都道府県会のうち最も多い回数となり、修了者も最も多い人数となりました。また、歯科衛生士がキャリアを積み重ねて一生

働き続けることを支援するシステムとして、兵庫県から委託されて「兵庫県歯科衛生士センター」を全国に先駆けて創設し3年間の活動を報告書としてまとめました。

令和4年度は、新たに兵庫県から委託され「歯科衛生士のための認知症対応力向上研修会」を実施し、「歯科診療所・地域包括支援センターにおける認知症対応調査および事例集」の報告書を作成し、県市町関係機関や医療職団体に配付しました。

さらに、この3年間に職能団体として職域の強化を目指したセミナーを開催しました。今年度も職域分野別のブラッシュアップセミナーを3月に開催します。それぞれの職域分野を拡大し深化していくことが個人のスキルアップにつながります。

その成果は、第10回を迎えた兵庫県歯科衛生士会学術フォーラムの歯科衛生学術研究会において、就業歯科衛生士や歯科衛生士養成機関の学生会員が発表する場を設けています。

来年は、医療界にとって重要な年になると言われています。診療報酬、介護報酬、障がい福祉サービス等報酬改定が行われ、医療計画、介護保険事業計画、健康増進計画などが改訂され、医療現場の働く環境整備なども取り上げられようとしています。

また、国民皆歯科健診に向けた動きも具体的になってきました。

歯科衛生士を取り巻く状況は刻々と変化しています。想定外のことが発生した時にも、学校での基本的な学びを基礎として、常に最新の情報を得た上で柔軟な対応力が求められています。

* (公社) 兵庫県歯科衛生士会 会長



兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院同窓会 「むつみ会」活動報告

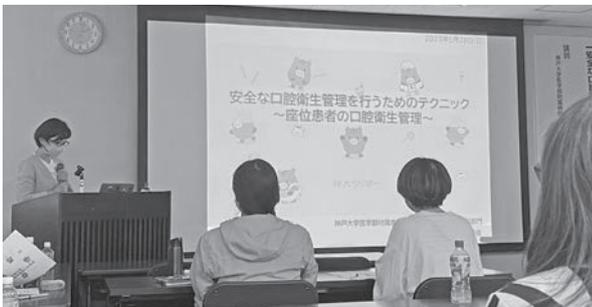
*竹内 知恵

兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院の皆さまにおかれましては、同窓会むつみ会の活動への多大なるご支援、お力添えをいただき厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の「2類」から「5類」に引き下げられて半年が経とうとしています。少しずつ日常が戻りつつある中、私たち同窓会むつみ会も、4年振りに総会と研修会を開催致しました。

今回は本学院卒業生の西井美佳さんを講師にお招きして「安全な口腔衛生管理を行うためのテクニック～座位患者の口腔衛生管理～」という演題で講演していただきました。

神戸大学医学部附属病院では、近年がん治療を受けられている患者において、周術期に包括的な周術期等口腔衛生管理が行われています。病院でがん治療を受け、退院後も継続した口腔管理を行うためにかかりつけ歯科医院へ通院されるケースは多くあり、口腔がんや頭頸部がんの治療後の患者では、口腔内や咽頭に術後の変化などで、嚥下障害を抱えて退院される事も少なくないそうです。またがん患者だけでなく、高齢患者などでも、誤嚥のリスクのある患者が来院されるケースがあり、そのような誤嚥のリスクのある患者全般に安心安全な口腔管理が必要です。



*むつみ会 会長

以前より嚥下に問題があり水平位での口腔衛生管理が難しい患者は、歯科ユニットを倒すことなく、患者は座位、術者は立位の状態でのスケーリングなどを実施しているそうです。患者の体位、術者の位置、バキュームの位置など工夫し、通常の水水平位でのやり方とは違い、できるだけ口腔内に唾液や水を溜めないよう注意を払い口腔衛生管理を行っているそうです。今回は患者が座位で口腔衛生管理を行う実際の光景などを含めた具体的な口腔衛生管理の方法についてスライドを用いながらお話していただきました。

当日は66名の方がご参加くださり、実り多き研修会になったと思います。

研修会後のアンケート結果では、
・研修会は分かりやすかった (51名)
・明日からの診療にいかせそう (45名)
など嬉しい結果となっています。

これからも会員の皆さんに喜んでいただける研修会を開催していきたいと思っています。

最後になりましたが、今後とも同窓会むつみ会への変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



高齢者歯科学を担当するにあたり

高齢者歯科学担当 砂治 国隆

この度、令和5年度より前任の駒井 正先生から高齢者歯科学を担当することになりました砂治国隆です。

私は兵庫県の北西部で水ノ山のふもとの山間地、養父市大屋町の国民健康保険歯科診療所に勤務しています。養父市は過疎化が進み、人口約2万5千人で高齢化率は40.9%、診療所のある地域は45%を超えています。以前鉱山のあった明延地区という所は高齢化率が70%を超えています。市内でも限界集落といわれる所も増えています。当然高齢者が多いわけですから、高齢者とは常に付き合っていることになります。こういう場所なので、診療所に通っていた患者さんが、病気などで通院できなくなる方もたくさん出てきます。そうなるこちらから行くしかないかと、当然のことのように訪問歯科診療を行うようになりました。平成になる前から始めましたので、30年以上やっていることになります。

私の地域だけではなく、現在、わが国の少子高齢化はどんどん進んでおり高齢者とは離れて考えることができなくなっています。高齢者の大半の方が基礎疾患をかかえておられ、たくさんの方の服薬もされ、さらには認知症に罹患されている方も増えてきています。そこで、歯科治療においてもそのようなことを踏まえて高齢者、超高齢者の患者さんを診ていくことが要求されます。歯科衛生士さんにはまずは高齢者に多くみられる病気や高齢者の特性を理解し、慎重かつ丁寧に対応してほしいと思います。高齢者の方は優しい対応がとっても喜ばれます。

高齢者の方は8020運動により多くの歯が残っ

てきています。子供のう蝕はかなり減少しましたが、中年期以降のう蝕は増え続けています。その結果、脳卒中などにより入院を余儀なくされ、数ヶ月後、退院された時は口腔内のう蝕も含め、悲惨な状況になっている方も多くみられるようになりました。退院時のカンファレンスや食の支援など、多職種との連携がかなり重要なことになってきます。さらには、フレイル、オーラルフレイル、口腔機能低下症、摂食・咀嚼・嚥下障害などの予防などもかなり最先端で対応していかなければならなくなってきました。歯科診療は「食べる」と、「しゃべる」を支援することを念頭に置く必要があると思います。それこそが口腔健康管理ではないでしょうか。今後、都市部も含めた多くの地域で訪問歯科診療も視野に置いて考えていかなければならないでしょう。歯科衛生士さん私も私は関係がないのではなく、どんどん地域に出て行って活躍してほしいと思います。もし許されるなら郡部の行政や診療所で働いてみませんか。地域とのかかわりは、すごく楽しいですよ！

高齢化に伴い高齢者歯科はかなり注目されるようになりました。そのようなことで前任者からお鉢が回ってきたと思われます。講義はそのノウハウを生かしてお話しできればと思い資料作りに頭を痛め、かなり戸惑っております。すぐにはなく歯科医療現場に出てから数年たった頃、参考となることが多いかも知れませんが、無駄にはならないと思っています。あの時そういえば話を聞いたなと思い出していただければ幸いです。よろしくお願いいたします。



講義担当にあたって

臨床検査担当 大森 雄司

この度、2023年4月より前任の川邊睦記先生より引き継いで臨床検査の講義を担当させていただくことになりました大森雄司です。

現在は宝塚市立病院の歯科口腔外科で勤務をしております。口腔外科で勤務、といわれてどんな仕事をしているのだろうか、あまり想像ができない方が多いかもしれません。もしくは親知らずの抜歯や外科手術、といったイメージが強いかもしれません。確かに上記の仕事は日々こなしています。ただ、実際に抜歯一つにとってみても、何も考えずに歯を抜き続ける、といったことはありません。模型相手に抜歯の練習をするのであれば、ひたすら抜き続けることで手技は上達するでしょう。しかし相手は生きている患者ですので、既往歴や内服している薬、顎の形や歯の生え方、歯根の湾曲、下歯槽管との位置関係、などそれぞれ患者一人一人背景が違います。

後期高齢社会がどんどん進んでいく中で、2012年では、65歳以上1人に対し20～64歳は2.4人の割合の「騎馬戦型社会」といわれるような人口比率でしたが、2050年には「肩車型社会」といわれるような65歳以上1人に対し、20～64歳は1.2人とほぼ1対1の比率になるといわれています。つまり、これからの患者の層も、2人に1人は65歳以上の患者を診察していくことになるのです。当然、全身疾患を多くもった患者が多くなることが想定されます。大学病院だから全身疾患を持った患者が多く集まる、というわけではなく一般の開業医でも患者が申告しないだけで多くの全身疾患を持っている可能性

もあります。歯医者であっても歯の知識だけでなく、医学的な知識を身に着けておかないと患者に対応できない時代になってきています。

「透析に週何回か通っている」「心臓の手術をしている、人工弁置換術というのをしたらしい」「心臓にペースメーカーが入っているといわれた」「骨粗鬆症で骨の薬を使っている、注射をしているみたい」「抗がん剤の治療をしていて大学病院に定期的に通院している」。このような患者に対しスケーリング、ほんとうにしているの？口腔ケアはどのように指導しようか？血圧測定してっていわれたけど、どっちの腕でもいいの？と考えることが多くなると思います。

患者の背景をしっかりと把握する上で、「問診」は最初に行う患者との対面の上で非常に大事になってきます。さらに「検査」という形で患者の全身状態を相対的に評価します。画像検査にてパノラマエックス線写真、デンタル、CT、MRIなどで病変部の特定を行う。採血検査にて炎症反応や腎機能、肝機能、栄養状態などの評価を行う。病変がなにかを把握する上で生検を行い、病理検査にて確定診断をする。全身麻酔で処置が必要となれば肺機能や心電図検査、胸部レントゲン写真などの評価も必要になります。

臨床検査の講義は検査値をたくさん覚えたり、医学的な話も多く大変だと思いますが、この講義で学んだ知識を是非、実際の臨床現場でも活かしていただけますと幸いです。



歯科薬理学の講義を担当するにあたって

歯科薬理学担当 笥 康正

2023年度より、前任の榊原先生より引き継ぎ、歯科薬理学の講義を担当させていただくことになりました笥 康正と申します。

大阪大学歯学部歯学科を卒業後、研修医として神戸大学医学部附属病院の歯科口腔外科に入学し、現在も神戸大学の口腔外科で主に口腔がんを中心に診療しております。もちろん、抜歯などの一般的な口腔外科手術やインプラント治療にも携わっており、術後口腔がん患者の顎義歯なども作成しています。

最近の趣味はというと、休みの日に神社・仏閣に訪れ、御朱印を集めています。神聖な空気に触れると、日常を忘れられ、リラックスできるのでおすすめです。あと、町中華巡りにもはまっており、下町の雰囲気がお気に入りです。

さて、私の担当させていただいている、歯科薬理学というと、皆さんにとってあまり馴染みがなく、難しい印象があるかもしれません。もしかすると、薬理作用の機序や効能、副作用などを学ぶことは、少し難解で苦手意識を持たれている方も多いかと存じます。

しかし、歯科の臨床では、毎日さまざまな薬剤が登場します。歯科治療において頻回に触れるのが、麻酔薬です。麻酔薬は最も皆さんが触れる薬剤と言っても過言ではありません。患者さんによって麻酔薬をなぜ使い分けるのか、どのような副作用があるのかを理解することで、歯科臨床において大きな意味があると思います。

次によく触れるのは、患者さんに処方する鎮痛剤や抗生剤です。抗生剤や鎮痛剤の違いを理解することで、なぜこの患者さんには、この種

類の薬剤を処方するのか理解でき、患者さんや治療への理解が深まることと思います。

他にも、歯科治療において影響がある薬剤や疾患を学ぶことで、臨床現場で歯科医師と共により深く、協力しながら治療を行えるかと思えます。

最近よく耳にする薬剤関連性顎骨壊死（MRONJ）もその一つです。骨粗鬆症などに関連する薬剤を知り、その薬剤と顎骨壊死のリスクを理解することで、日頃の定期検診や歯周基本治療の重要性を学ぶことができます。このリスクを知った上で患者さんと関わり、スケーリングや実地指導を行い、MRONJのリスクを伝えていくことで、今後、MRONJを予防することに繋がれると思います。

難しいイメージがある、歯科薬理学ですが、このように皆さんのこれからの診療に大きく役立ち、患者さんへ繋がられる重要な学問です。

これから臨床の現場に出て、活躍される皆さんに対して、よりイメージが付きやすく、より理解してもらえるように講義していきたいと思っております。実際に臨床現場で働き始めた際に、歯科薬理学で勉強したなと思っていただけるよう、精一杯頑張りますので、ぜひ一緒に頑張りましょう。これからよろしくお願ひします。



歯科衛生学科講師着任のご挨拶

感染対策担当 武田 大介

初めまして、令和5年度より「感染対策」講師に着任致しました武田大介と申します。前任の駒井 正先生より本講義を引き継ぎ、第53回生の学生さんより担当をしております。

私の所属は神戸大学医学部附属病院歯科口腔外科で、日頃は口腔がんや顎変形症を主に診療しております。この度、歯科衛生学科講師選定のお声がけをいただいた際の率直な気持ちとしましては、「ようやくまわってきた!」です。ではなぜ、私がそのように思ったのかをまずお伝えしたいと思います。

もう8年も前になりますが神戸大学の関連病院勤務時に貴学院の肥塚先生に初めてお会いし、当時の学生さんの診療補助指導や実習帳チェックをさせていただきました。神戸大学に戻ってからは徐々に私自身の専門分野が決まっていくにつれて手術室にいる時間が増え、教員業務も急増しました。さらに、COVID-19の蔓延によって学生さんの実習行動にかなりの制限が加わり、外来診療で学生さんに関わることはほとんどなくなってしまいました。よって、最近手術室見学の許可申請や症例選定など、陰ながらの支援に留まっております。そのような状況ですが、歯科衛生士主任と学生さんの実習内容を話し合うことが多くあります。「何を見てもらうのがよいのか?それから何を学んでもらうのがよいのか?」と考えるうちに、「そもそも学校でどのようなことを習っているのだろうか?」という疑問がでてきます。このような思考を幾度としてきた経緯での前述の第一心情なのです。

私が担当する「感染対策」の科目は極めて臨床現場に基づいたテーマです。また、専門分野の小区分では歯科診療補助論に分けられておりますが、専門基礎分野である微生物学や口腔微生物学にも“関わり”があり、その他のすべての専門分野にも“つながり”があります。良くも悪くもCOVID-19によって全世界中の人々が『感染』という用語に非常に敏感になっている世情で、特にハイリスク臓器である口腔を診療するわれわれ歯科医療従事者は一般の方々よりも「感染対策」に詳しくないといけません。また、従来の血液や唾液を介する感染症についての基礎知識は、“患者さんのみならず自分自身の身を守るため”にも必須です。シラバスの一般目標は『歯科医療機関における院内感染対策に必要な基礎知識と方法について学び、将来歯科医療従事者として適切な感染予防対策が行える教養を身につける』としました。教科書も歯科衛生士教本シリーズにないため新規に選定しました。事細かな“お作法”は臨床実習先や将来のご勤務先で「郷に入っては郷に従え」で先輩に習うでよいと思いますが、“お作法の基本”はどうしても座学になってしまいますが学院で学ぶしかありません。まだまだ「清潔と不潔」の感覚も身につけていない時期の講義のため、難しい内容も多く、堅苦しく理屈云々もない内容もあると思います。しかし、これから多種多様な活躍の場が期待されている『歯科衛生士』を目指す学生さんには、その他の医療系国家資格に負けぬように一緒に頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。



衛生学・公衆衛生学を担当するにあたって

衛生学・公衆衛生学担当 山下 淳也

2023年度、前任の新庄先生より衛生学・公衆衛生学を引き継ぐことになりました山下淳也です。衛生学・公衆衛生学と聞くと、学生の皆様はイメージしにくいかもしれません。新型コロナウイルス感染症に対する施策など、具体的な事例を提示しながら分かりやすい講義を行うように努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

日頃は神戸大学医学部附属病院歯科口腔外科で診療に従事しており、口腔粘膜疾患などを専門としています。口腔粘膜疾患のうち、白板症や扁平苔癬は経過観察中に悪性転化を認めることがあります。以前は前癌病変や前癌状態と呼ばれ、前癌病変は正常よりも癌化しやすい形態的变化を生じた組織で、前癌状態は癌化リスクの上昇に関係する状態と定義されていました。2017年に WHO はこれらを、口腔潜在的悪性疾患（oral potentially malignant disorders：OPMDs）としてひとつの疾患概念としてまとめました。具体的には紅板症、紅板白板症、白板症、口腔粘膜下線維症、先天性角化不全症、無煙タバコ関連角化症、リバーススモーキングによる口蓋病変、慢性カンジダ症、扁平苔癬、円板状エリテマトーデス、梅毒性舌炎、光線角化症（口唇）の12疾患が列挙されています。本邦ではほとんど報告のない疾患も含まれますが、悪性転化率は紅板症で50%前後と報告されています。初回生検時の病理診断で上皮異形成が明らかでない症例もあり、その後の経過観察中に再度生検した場合に悪性所見を認めることもありますので、慎重な経過観察を行っています。

歯科保健分野では国民皆歯科健診が話題になりました。2023年6月に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）2023」では、「リハビリテーション、栄養管理及び口腔管理の連携・推進を図る。全身の健康と口腔の健康に関する科学的根拠の集積・活用と国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）に向けた取組の推進、オーラルフレイル対策・疾病の重症化予防につながる歯科専門職による口腔健康管理の充実、歯科医療機関・医科歯科連携を始めとする関係職種間・関係機関間の連携、歯科衛生士・歯科技工士などの人材確保の必要性を踏まえた対応、歯科技工を含む歯科領域における ICT の活用を推進し、歯科保健医療提供体制の構築と強化に取り組む。また、市場価格に左右されない歯科用材料の導入を推進する。」と記載されています。国民皆歯科健診とはすべての国民が生涯にわたり歯科健診を受けられる制度であり、今後数年のうちに国民に毎年の歯科健診が義務となる可能性があります。このことは発表されると、すぐさまマスメディアで取り上げられ、国民の関心も高いことがうかがえます。

衛生学・公衆衛生学ではこういった制度の背景を取り上げ、学生の皆様には、目の前の患者のみならず、より大きな視点をもって学んでいただければと思います。



解剖学②の講義を担当するにあたって

解剖学②担当 山本 信祐

神戸市立医療センター中央市民病院の山本信祐と申します。前任の竹信俊彦教授（大阪歯科大学口腔外科学第二講座）から引き継ぎ、解剖学②の講義を2023年度から担当させていただくことになりました。私は福井県出身で、新潟大学歯学部を卒業後、神戸市立医療センター中央市民病院 歯科口腔外科で歯科研修を修了しました。東京医科歯科大学大学院に進み、4年間がんの研究に携わっていました。その後、彦根市立病院を経て、現在は神戸市立医療センター中央市民病院 歯科口腔外科で口腔外科医として勤務しています。

私が担当させていただく解剖学は「基礎医学の基礎」と称されるほど、医学の歴史上最も早く学問として成立した分野です。医学（歯科医学）を学ぶ上で、もしくは医療を実践する上で、まずその対象とする人体の形・構造を知ることが求められます。歯科医学は（もちろん）医学の一部です。全身と口腔の関係もしくは全身からみた口腔という概念に基づき、私の講義では、まず全身の解剖として、人体の形・構造を概説し、続いて、歯科の専門領域として、頭頸部の詳細な説明を行っていきます。

近年の高齢化により、全身疾患を有する患者や摂食・嚥下障害を有する患者、全身疾患に由来する口腔疾患を有する患者への対応や在宅歯科医療など、歯科衛生士に求められる知識・役

割は増加しています。学生の皆様からすると、「解剖学は覚えなきゃいけないことばかりで大変だなあ。でも国家試験に合格するために頑張っ勉強しなきゃなあ。」というのが本音かもしれません。しかし、解剖学を学ぶ中には、人体の形・構造に対する多くの驚きがあり、解剖学を学ぶことで、自分のこと、他人のこと、人間のことを少しだけ愛おしく感じるようになると思います。解剖学は理解する学問であり、決して単純に骨や筋、神経、血管を丸暗記するだけのものではありません（もちろん、最低限の暗記は必要となりますが…）。多くの驚きを共有できるような、そんな講義ができたらいいなと考えています。

超高齢社会において、歯科医療に求められるニーズは刻々と変化していくものと思われませんが、さまざまな場面で他の医療職種と連携しなければならないことは今後も普遍です。他の医療職種との連携において取り残されないためにも、他の医療職種と対等に会話を行うためにも、「基礎医学の基礎」である解剖学の知識をしっかりと身につけ、臨床の場に飛び出していきたいと思っています。「明日を考えぬ者のみが最も今日をよく生きる！！」。明日覚えようではなく、授業中に理解してください。一つ一つの驚きを大事にしてください。

<専任教員>



令和5年度 臨床実習指導歯科衛生士打合せ会開催

歯科衛生学科 専任教員 角田 安佳梨

令和5年度臨床実習指導歯科衛生士打合せ会を4年ぶりに開催することとなり、5月11日(木)10時より本学院にて開催しました。

臨床実習受け入れ機関は病院21機関、保健センター9機関、歯科医院47機関、矯正歯科医院12機関となり、そのうち37名の指導歯科衛生士の方にご出席いただきました。

小村教務主任の進行により、打合せ会を開始し、浦出学院長による挨拶、実習先紹介、協議、情報交換を行いました。協議では、(1)学院現況・教務報告、(2)臨床実習について、1. 臨床実習概要、2. プレ臨床実習、3. 矯正・センター実習、4. 本実習、5. 主要3科目カリキュラムについて説明を行いました。また、3年次の臨床実習本実習に備え、学内で行っている各科目の総まとめ実習について、そして最近の学生気質の傾向についてスライドを用いてご説明させていただきました。熱心にご覧いただき、細かくメモを取ってくださっていました。

情報交換の時間には、グループディスカッションを行いました。グループディスカッションでは、1. 各施設の実習内容について、2. 学生対応で困った点について意見が交わされ、最後にグループ毎に発表していただき、出席者全員で情報を共有しました。

各施設の実習内容については、「インプラント・訪問診療などさまざまな診療の見学やアシスタント」「休憩中に相互実習を実施」「空き時間を利用し、学生への質問や症例のレクチャーを行う」などがありました。さらに学生のレベルや成長の度合いに合わせた実習カリキュラムを組んでくださるなど、各実習先でさまざまな工夫をしてくださっていました。続いて学生対応で困った点では、「実習帳の訂正をしない」「言葉遣いが悪い」「指示が守れない学生にどこまで指導したらいいか悩む」などというご意見をいただきました。臨床実習前の学生オリエンテーションではしっかり伝え、昨年の学生と同じ指導をしていただくことがないようにしていきたいと思います。

日々お忙しい中で学生の実習をお引き受けくださっている指導歯科医師、指導歯科衛生士の方々には学生指導にご尽力くださり深く感謝致しております。ご負担をおかけしながらの学生指導とはなりますが、臨床現場での学びで、学生は大きく成長して学院に戻って参ります。そしてこの経験は、国家試験に合格し、ライセンスを取得した後の歯科衛生士の歩みの礎となり、さらなる成長へと繋がるはずです。私たち教員もこの臨床実習を実りのある実習となるよう全力でサポートして参りたいと思います。



学院全体交流会を終えて

第54回生 今井 志穂

令和5年5月25日に学院全体交流会が行われました。入学後すぐのクラスでの交流実習と、5月初旬にA・Bクラス合同で行われた合同レクリエーションを通して、54回生だけでの交流はありましたが、3学年揃っての交流は今回が初めてでした。何をするか内容は当日の発表だったので、前日から「何をやるのだろう」「先輩たちと関わるのは初めてで上手く話せるかな」とドキドキしていました。そして当日、学院の校舎全体を使った謎解きゲームと宝探しだと発表されました。この交流会は1・2・3年生3名1班でチームを作り、協力しながら校舎のあちこちに散らばった謎を解いていくというゲームで、浮かび上がった合言葉を教員に見せると次の謎に進めるというものでした。私は、この交流会を通して、先輩方とのコミュニケーションや問題解決能力を高めることができました。

まず、交流会が始まるまでの間、同じチームの先輩方と話せる時間があり、先輩方は学校生活やテスト勉強の方法、学内実習の実技試験に合格する秘訣や、2年次に行く小集団活動、アルバイトを探す上でのアドバイスなど、色々なことを教えてくれました。先輩は歯科医院でのアルバイトをしていない分、勉強に力を入れ本試験で絶対に合格できるようにしていたと聞きました。私は、先輩方の話を聞いて、勉強に対する姿勢や目標を見直すきっかけになりました。また、先輩方は、私にも積極的に質問したり意見を言ったりするように促してくれました。私は人見知りです話するのが苦手なので、最初は緊張していましたが、先輩方が気軽に話しかけてくださりとても話しやすかったです。

次に、交流会の本番である謎解きゲームが始まりました。私たちのチームは先輩の提案で、分からない問題は後回しにして、どんどん次の問題に挑戦するという戦略を取りました。この戦略は、時間効率が良く合理的なものだと思います。先輩方は頭が良く、素早く問題を解

いていき、私もチームの一員として貢献したいと思い、一生懸命考えて答えを出しました。私が正解した時には、先輩方は大喜びして褒めてくれました。どの問題も私には難しく分からない所が多かったのですが、先輩方は解き方や考え方を丁寧に教えてくれました。おかげで、私たちのチームは見事1位になることができました。3人で力を合わせて1位になれたことが本当に嬉しかったです。

この学院全体交流会は、普段あまり関わることのなかった先輩方と親しくなることができる素晴らしい機会でした。また、今回先輩方から学んだことは多くあります。特に印象的だったのは、コミュニケーション能力や問題解決能力の重要性でした。先輩方と話すことでコミュニケーション能力の大切さや、周りをよく見て今、何が一番適切な方法かを自分で考えることが大切なのだと学びました。これらの能力は、今後臨床実習や国家試験に向けて必要なものだと思います。また、歯科衛生士として働く時にも、さまざまな人や状況に対応するために必要なものだと思います。今回得た経験や知識を活かして、これからの実習や授業、単位修得試験、そして最終的には国家試験合格に向け頑張っていきたいと思っています。





学院全体交流会を終えて

第53回生 稲盛 倅菜

私たち53回生は入学した当初、新型コロナウイルス感染症の影響で交流会を含め行事に制約を受けてきました。学年を超えた交流の機会はほとんどなく、同学年内での交流も感染対策を徹底しながら行うというものでした。しかし、2年生になり新型コロナウイルス感染症が5類に分類され、初めて学年を超えた学院全体交流会が開催されました。

交流会当日、私たちは何をするのかも分からず指定された席に座りました。そこでは1・2・3年生が混ざった3人のグループが作られ、隣にはこれまで話したことの無い先輩と後輩が座っていました。最初は何を話したら良いのか分からず戸惑いもありましたが、メンバーの親切さに触れ、交流会が始まる前からすでに打ち解けることができました。しばらくするとゲームの説明が始まりました。内容は、校舎内に設置された問題をグループで協力して解いていくという内容でした。回る順番は決まっていなかったため、空いている場所から進んでいきました。簡単な問題から難しい問題まで難易度はさまざまでしたが、3年生の機転と1年生の想像力を活かし、次々進むことができました。高難度の問題には苦戦する声も聞こえましたが、賞品を目指し全てのグループがライバルとなり、ゴールを目指していました。私たちのグループも1問だけ問題を解くのに苦勞し、第1ステージをクリアできたのは中盤ぐらいの順位だったと思います。急いで最初の説明を受けた場所に戻ると、また第2ステージとして新たな問題が渡されました。その場にはすでに多くの人がいましたが、問題を解けているグループはありませんでした。第2ステージの問題はさらに難しく、さまざまな考え方のパターンを試したり相談をしながら知恵を出し合いました。しかし、なかなか答えは出せず最終ヒントをも

らうまで解くことができませんでした。ようやく答えにたどり着き先生に見せに行くと、驚くことに私たちのグループが1位でした。第2ステージの問題を解いている間も、第1ステージを終えたグループが増え続けていたので、まさか私たちのグループが1位になれるとは思っておらず、その結果には大変喜びました。これまでの学生生活で1位を取ったことがなくあまり実感が湧きませんでした。賞品を受け取りに前へ出たとき、ようやく1位だという実感が湧き、恥ずかしさもありましたが本当に嬉しかったです。

昼食は学院が用意してくれたものを、グループで一緒に食べました。交流会中は問題を解くことに集中していたので、プライベートの話ができませんでした。食事をしながら緊張も和らぎ楽しい時間を過ごすことができました。

今回の学院全体交流会は、人見知りで自分から話しかけるのが苦手な私にとって、53回生だけでなく他学年の人たちとも交流が持て、人間関係を広げる良い機会となりました。3年生の先輩からは単位修得試験の対策方法など、勉強に関する話もたくさん聞くことができ、大変有意義な時間を過ごせて本当に良かったと思います。今後も感染症が流行らない限り、このような交流会が続けられることを願っています。





学業奨励賞をうけて

第53回生 佐山 優貴

この度は、学業奨励賞をいただくことができ、大変嬉しく思います。

私はこの学院に入学するまで、介護士として高齢者施設で働いていました。そこでは、病気や身体的機能低下のために自分で歯磨きができない方や、義歯のお手入れができない方に口腔ケアをする機会が多くありました。特に認知症の方への口腔ケアは、何をされるのか分からないという不安や恐怖で口を開けてくれなかったり、途中で歯ブラシを噛んで磨けなかったりと十分に口腔ケアができないということがよくありました。また、スポンジブラシや歯磨きティッシュなどの使い方は正しいのかなど不安に感じることもありました。そんな時に訪問の歯科衛生士さんと出会いました。その歯科衛生士さんが口腔ケアをすると入居者の歯がきれいに磨かれ、笑顔になっていることに気付きました。私もしっかりと口腔ケアができるようになりたい、歯や口について専門的に学びたいと思うようになりました。

入学当時はクラスに馴染めるか、授業についていくことができるか不安でいっぱいでした。しかし、年齢が離れていても受け入れてくれる同級生の皆と過ごすことで良い刺激となっています。実技に関しては、スケーラーの把持の仕方や動かし方、セメントや印象材の練和の方法など、先生方が学生一人一人に分かりやすく丁寧に教えて下さるので、少しずつ不安は消えていき、楽しい学校生活を送ることができています。

私が学校生活で心がけていることは3つあります。1つ目は授業をしっかりと聞いて理解していくことです。そして、そこで分からない点や疑問点が生じたときは質問し、すぐに解決することです。授業ではたくさんの専門用語や器具名が出てきます。初めて聞く単語はなかなか理解できず、覚えるまでに時間がかかりました。しかし、授業をしっかりと聞くことで、同

じ単語が何度も出てきて理解に繋がることがあります。また、分からないことがあっても、歯科医院でアルバイトをしている友達に教えてもらったり、先生に質問したりと疑問点をなくしていました。

2つ目は計画的に勉強に取り組むことです。カリキュラムを確認し計画を立て試験勉強をしています。試験と課題が重なると試験勉強の時間が減り、焦ってしまいます。そのため課題が出された時はすぐに取り組んでいます。

3つ目は小テストもしっかりと勉強することです。単位修得試験は範囲が広く、試験直前に全てを勉強しようとする覚えられず大変です。小テストは前回学んだ内容のテストであるため範囲が狭く、覚える量も少ないです。毎回の小テストを頑張ることで、少しずつ内容を理解でき、覚えられます。その結果、試験勉強に繋がっていると思っています。

私は家で勉強する事が得意ではないため、通学時の電車に乗っている合間に勉強をしたり、休み時間に友達と問題を出し合ったり、覚えたことを友達に説明したりしています。

これからも歯科に関する専門分野を学ぶ中で、課題や試験が重なり勉強が大変になることがあると思います。しかし、これまでの自分を信じ努力をしていきたいと思っています。





学業奨励賞をうけて

第52回生 仁王 美菜子

この度は学業奨励賞をいただきありがとうございます。このような賞をいただけたことを大変嬉しく思っております。

私はこちらの学院に入学するまで、歯科医院で歯科助手として勤務していました。最初は歯科医師の先生方や歯科衛生士、歯科助手の方が何をしているのか全くわからない状態でした。しかし、どうしてこの処置を行うのか、どうしてこの薬品を使用するのかなど、基本的なことから丁寧に教えていただき、歯科に対する興味が強くなり、もっと知りたいと思うようになりました。私が歯科衛生士になりたいと思ったきっかけとなったのは、憧れの歯科衛生士の先輩の存在でした。予防歯科に力を入れていることもあり、歯科衛生士の役割の大きさを常に実感しておりました。そんな歯科衛生士としての知識量、技術力、コミュニケーション能力など、多くの能力が求められる現場において、その歯科衛生士の先輩が行う指導に私はいつも聞き入ってしまっていました。遠方からその歯科衛生士の先輩に診てもらいたいと言って来院される患者さんもおられ、その方は「いつもありがとうございます。遠くから来る甲斐があるよ。」とおっしゃられており、それを聞いたときに改めて尊敬の気持ちを強く感じました。私も患者さんに信頼され、患者さんの口腔と全身の健康を守れる力のある歯科衛生士になりたいと思いました。

入学して一番不安に感じていたのは、社会人から学生になり久しぶりに勉強をするため、周りについていくことができるのかということでした。私は特別勉強が得意というわけではなかったのですが、とにかく周りの人にたくさん助けられた2年間でした。

一年次は主に基礎科目を座学で学び、実技も器具や機械の操作方法といった基礎を学びました。二年次は、プレ臨床実習、小集団指導など、実際に現場に行かせていただく機会があり、新しい知識の修得や現場だからこそ見られる歯科衛生士の、患者さんへのさまざまな対応など、新たな

刺激を受けることができました。また、二年次で学んだ臨床科目では一年次の基礎科目で学んだ内容の応用のような内容も多く、おもしろいと感じるようになりました。単位修得試験や課題に追われて大変に思うことはありましたが、学びに集中することのできる今のこの環境をととても幸せでありがたいものであると感じています。

単位修得試験の勉強は授業を受けたその日から始めていました。ノートに問題をつくる形でまとめ、それを使って覚える方法で勉強しました。私は、勉強だけをするよりも、気分転換をして気持ちをリセットするような時間を設けることで、勉強をすると決めたら思い切り集中するという、オンオフの切り換えを大切にしていました。そのため、電車などの隙間時間を活用して暗記をするようにしました。クラスには、勉強熱心な人、発想力のある人、予習をととてもきれいにまとめる人など、とても尊敬できる人がたくさんいます。私は多くの人から刺激を受けることができる、とても恵まれた環境で学ぶことができていると、日々感謝しています。

学院生活も残り僅かとなり、臨地・臨床実習を終えれば国家試験があります。52回生全員での合格ができるよう、日々学びを深めたいと思います。そして、目標とする歯科衛生士像を目指し、日々精進していきます。この度は本当にありがとうございました。



社会人経験のある新入生 との 座談会



Q：皆さん授業の後、お疲れのところお集まり
いただいてありがとうございます。

皆さん一旦社会にでて働いてらっしゃる方
8名にお集まりいただいたということで、
皆さんのような社会人経験者の学生に入学し
ていただくために、忌憚のない意見をお話し
いただけたらと思います。

まずは自己紹介から、入学から2ヶ月の
学生生活の感想も入れてお願いします。

K 1：4年制大学に行ってから、エステで7
ヶ月ほど働いて少し休んで1年ほど歯科助
手をしておりました。

学校生活は大変ですがついていけるよう頑
張っています。

K 2：社会人経験してその中でコロナ禍とな
り、働き方を変えたくて、まずは資格を取り
たいと思いました。入学の前に歯科衛生士が
自分に合うか知りたくて助手として働いてみ
てから入学を決めました。

今は歯科医院では学べなかったことが学べ
て大変ですが充実しています。

S 1：歯科助手を2年間してから歯科衛生士
への憧れにより入学を決意しました。
学生生活は大変ですが楽しいです。

S 2 : 音楽の短大を出て1年ちょっと歯科助手を経験し、歯科衛生士を目指そうと思い入学しました。(歯科衛生士の勉強は)難しい漢字が多いので勉強が大変です。

T : 4年制大学を出た後に歯科助手として働き、その間に結婚と出産を経験しているので実際の勤務は5年ほどですが在籍は7年ほどです。

ずっと入学したかったのですがタイミングを逃して今に至ります。学校後は育児と家事があり、勉強をする時間があまり取れないのですが、勉強自体が楽しいので大変ですが頑張っています。

H : 18才から社会人として働きエステのお仕事を4年、調剤薬局、最後に訪問歯科で働きました。今まで興味を持てることがあまりなかったのですが、歯科衛生士さんが患者さんのお口の中を触っているのを見て、口の中を触りたいなと思い、人の歯に興味を持ちました。

学校生活は10余年ぶりで校則は社会人からすると厳しいなと思っています。

K 3 : 大学卒業後に新卒で1年だけIT系の営業をしたのですが、仕事にやりがいを感じられず、資格を取って、これから先出産後も働ける仕事に就きたいと思いました。

そこでもともと歯に興味があったこともあり入学を決めました。

学生生活は割と最近まで学生だったので、違和感なく楽しく過ごせています。



K 4 : 5、6年前高校卒業後に不動産業に従事して、その後歯科医院に5年ほど勤めて、歯科衛生士さんに背中を押されてラストチャンスと考え入学しました。5年ぶりの学校生活で勉強の仕方を忘れてしまい小テストなどでは苦勞していますが頑張っています。

Q : 8名中6名の方が入学前に助手として歯科医院に勤められていて、本校に入学を決めた理由をお伺いしたいです。自身で決めたのか、それとも周りから勧められたのでしょうか。



K 1 : 働いていた医院の年下の子が卒業生だったことと親の後押しがあって入学を決めました。

Q : 親御さんの後押しというのは歯科医院にお勤めの中で「スキルアップしたら？」というようなこと?

K 1 : はい、そうです。

Q : 勤め先の決め手としては給料面などあるかと思いますが、先輩がいるとか知っている人の後押しがあるというも大きいかと思います。勤めていたところに卒業後も?

K 1 : タイミング合えば、とは言っていたいています。一旦退職しています。

K 3 : 勉強に苦勞していても先生と一緒に考えてくれたり教えてくれるというのを聞いてここに決めました。

Q：先生は相談にも答えてくれていますか？

K 3：質問をすれば、きちんと答えてくれます。

K 2：私も同じく、働いていた医院や知り合いの歯科衛生士の勧めです。

あとはロケーション的にも三宮から近いこともあって選びました。

K 4：今も勤めている歯科医院の院長と歯科衛生士さんにここが一番いいと聞いて、特に調べず受験を決めました。

Q：勧めてくれたのはこの卒業生や学院とつながりがある方ですか？



K 4：いいえ、全然関わりのない大阪の医院ですが、ここが一番いいとおっしゃっていました。今も土曜だけアルバイトで入っていて、卒業後も来て欲しいといわれています。

S 1：勤めている歯科医院で歯科衛生士を目指すきっかけになった歯科衛生士さんがこの卒業生で、院長先生もここがお勧めだということだったので。

Q：今もそちらでお勤めですか？

S 1：はい。

S 2：勤め先の歯科医院で資格をとりたいと話したときに、その医院の歯科衛生士さんにこの学院の卒業生が多く、副院長もここを勧めてくれたので。

T：勤めた歯科医院には色々な学校の歯科衛生士さんがいて、夜間（新大阪やなにわ）が多かったがそこは子供がいるので難しく、他で探したらここがいいと聞き、本校卒業生がいて卒業生推薦書を書いてもらいました。

Q：学校におられる間はお子さんのお世話はどうしていますか？



T：幼稚園です。預けられない日は旦那が在宅なので。

17時頃には学校が終わるのでお迎えも間に合い、なんとかやれています。

Q：皆さん学校生活は社会人同士で集まっていますか？現役生とも話しますか？年齢差があると話しにくいとかありますか？

H：まったく（年齢は）関係ないですね。

まあ相手（現役生）はきついと思っているかもしれませんね（笑）

ジェネレーションギャップは感じますが全然気にしていません。

K 2：（ジェネレーションギャップは）すごく感じます。

Q：でも皆さん（社会人経験者を）頼りにしていると思いますよ。

H：私の勤務先の院長も奥様も歯科衛生士さんも皆さんここしかない、くらいのレベルで勧めてくれました。

Q：訪問歯科なんですよ？

H：はい、そうです。2つの医院で訪問歯科のお手伝いをしていました。そのうちの1つが自分を気に入ってくれていて今もそこで働いています。

もう一つの医院でも学院の卒業生が歯科衛生士で在籍されていました。

Q：珍しいケースですが、これから活躍していく歯科衛生士の分野として、先に見たような感じですね。

Q：この中でK3さんだけが歯科医院を経験しておられませんが、どのようにして歯科衛生士という職業を目指そうと思われましたか？資格にもいろいろあったと思いますが。

K3：看護師とも迷いました。資格を取って働き続けたいという気持ちが大きかったです。

Q：皆さんの身の回りに、是非歯科衛生士を勧めたいと思う方はいますか？

一同：うーん。

経済的な面でどうかもありますし、お姉さんが歯科衛生士をしていて、自分も目指したいという子はいますが、どうなるか…。

K3：まだ2ヶ月ですし、歯科医院での経験もないので自分でも実感できてないです。紹介できるかとかは、まだわからないですね。

Q：今回皆さんには初めてこのような形でお話を伺いました。機会があればまたご意見をいただければと思います。

授業でお疲れのところ有難うございました。





兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院に入学して

第54回生 和 里莉

兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院に入学してから4ヶ月が経ちました。新たな環境で専門的な勉強と本格的な実習が始まり、本当についていけるのかという不安を抱えながらも1ヶ月、2ヶ月と過ごすなかで、日が経つにつれ徐々に学校生活にも慣れてきました。毎日新しく学ぶことばかりで時間が経つのがとても早く感じています。

私が本校へ入学した理由は、自分が将来なりたい歯科衛生士像にありました。それは、患者さん一人一人に合わせた指導や声掛けを通して、患者さん自身が歯の健康への意識を高められるようサポートできる歯科衛生士を目指していることです。その為には患者さんと十分なコミュニケーションをとることと、安心して任せていただけるような信頼を築くことが大切だと考えました。そこで、本校には医療人として大切なマナーやコミュニケーション方法を学べる“医療コミュニケーション”や社会人としてのマナーが学べる“ホスピタリティ学”というカリキュラムがあることに魅力を感じ、本校なら私の目指す歯科衛生士に近づくことができると考えたからです。

入学して初めて54回生のみんなと会った時、年齢も出身地も違うなかで友達は何人できるのか、クラスに馴染めるのかと不安でしたが、まだ2日目にも関わらず「一緒にお弁当食べよう」「インスタ交換しよう」と話しかけてくれた友達がいて、とても嬉しかったです。その友達のお陰で、私も他のクラスメイトに話しかける勇気が出て、すぐに打ち解けることができました。特に54回生だけで行なわれたオリエンテーションでは、みんなと一緒にゲームやレクリエーションを楽しんでいて、本当に出会って1ヶ月しか経っていないのかと疑うほど、仲間意識が深まり盛り上がることができました。このメンバーで3年間同じ目標を持って一緒に頑張っていけることを心から嬉しく思います。

入学して2ヶ月ほど経った時、大学に進学をした友達と会い話を聞いていると、専門学校の生活は厳しい面も多く大学生活が羨ましく思うこともありました。専門学校は校則も厳しく、休みも少なく、勉強も実習も大変です。しかし、それだけ自分の夢に近づくために努力しているということだと思います。そしてこの時、大学とは違う専門学校の良さも感じました。1番の魅力は、1学年の人数が少なく、講師の先生が名前を覚えて下さったり分からない所を気軽に聞くことができる、生徒と先生の距離の近さだと思います。私たちの国家試験合格に向けて、さまざまな対策を考え真剣に向き合って下さる今の環境は、本当に恵まれていると感じています。大学とは違い、将来の夢を1つに決めてその道だけに進む選択をするのは簡単なことではないけれど、そのぶん自分が目指す歯科衛生士に向かって、自信を持って頑張ろうと思います。

学内実習では、最初は何もできなかったことが、友達同士で教え合ったり練習を重ねることで少しずつできるようになっていくのを感じています。そのできた時の喜びが、今の私のモチベーションとなり、もっと頑張ろうという気持ちになります。これから先、辛くて挫けそうな時もあるかもしれませんが、自分の夢を忘れずに頑張っていきたいです。





兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院に入学して

第54回生 鈴木 美弥姫

4月に入学してすぐ、クラスの役員選出で私は衛生自治委員になりました。そして5月には合同レクリエーションの準備、進行を任せていただくことになりました。この合同レクリエーションは、54回生A・Bクラス全体で交流をもつというもので、まだ話したことのない人が多いなか、班ごとに分かれ一緒にお弁当を食べたり、ゲームをして親睦を深めるというものでした。今回はビンゴゲームやクイズなどをして盛り上がり、皆とても楽しんでくれているようでした。

レクリエーションの準備では、さまざまなことに気を配りました。特に、食物アレルギーの対応は重要でした。食物アレルギーについてあまり知らなかった私は、これを機会に勉強しました。アレルギーは食べ物だけでなく、多種多様な原因で誰もが発症する可能性があることを知りました。歯科衛生士として、患者さんのアレルギーの有無を確認することは必須で「この患者さんにはアレルギーはないのだろうか」と思う事はとても重要なことだと気付きました。今回、アレルギー対応のお弁当を用意してくれたお店に感謝します。アレルギーのある人のお弁当にはメモを貼り、おやつには材料の表示をした紙を添えました。これで、安全にお弁当も楽しんでもらえたと思います。

もう一つ苦労したのが、ゲームの景品です。54回生お揃いで、普段使えて全員が喜ぶような景品は何だろうと考えた末に、オリジナルトートバックを作ることにしました。しかし、製作会社やデザインやサイズ、生地や費用などを決めるのはとても大変でしたが、当日までに完成させることができて良かったです。

今回の合同レクリエーションは大成功に終わりましたが、私の中では運営面で反省する点があります。それは、衛生自治委員4人で十分な話し合いができなかったことです。まだ入学したばかりで話したこともなく、関係性を構築できていなかったのもあり、準備内容を適度に分

散できず、負担が偏ってしまいました。次回またこのような機会があれば、改善策として考慮していきたい点が2つあります。1つ目はコミュニケーションです。準備を1人で担うのではなく、4人で最初に役割分担を決めておき、定期的に連絡を取り合うことで、もっと準備がスムーズに進んだのではないかと思います。2つ目は時間と心の余裕を持つことです。計画を立てて期限を決め協力することで、時間と心に余裕が持てると思います。

全てのプログラム終了後、周りの友人から「楽しかった」や「話した事のない子と仲良くなれて良かった」など嬉しい感想を聞くことができ、今までとても大変でしたがその言葉で救われたような気がしました。今回の合同レクリエーションで、班ごとに力を合わせて取り組み一緒に喜び合う中で、クラスの壁を越え少し絆が生まれたような気がします。そして、私の未熟さもありながら、見守ってくださった先生や友人に感謝しています。食物アレルギーについて今回知識を深められたように、まだまだ知らないことがたくさんあります。これからも勉学に励み、この経験を今後の学校生活や卒業後にも活かしていきたいと思っています。





3年生指導を終えて

第54回生 横山 そら

歯周病予防措置の3年生指導という実習で、私たち1年生が3年生の先輩方の初めての患者となり、私は施術を受けることでさまざまなことを学びました。

1回目の3年生指導では、医療面接、バイタル測定、う蝕活動試験をしていただきました。その後、実際に3年生の先輩に口腔内を診ていただき、医療面接では患者さんの現在の口腔状況だけでなく、使っている歯ブラシや歯磨剤、健康状態、食生活、医療アンケートをもとに過去の状況も把握することが大切だということが分かりました。バイタル測定では、実際に聴診器や電子血圧計を用いて、脈拍、血圧、呼吸を測っていただき、体の健康状態を見ていただきました。う蝕活動試験では、採取した唾液を透明フィルムにつけ、唾液の細菌数から、現在の口腔内の衛生状態を判定していただきました。採取するための唾液がなかなか溜まらず苦戦しましたが、3年生の方に「酸っぱいものを想像したり、唾液腺マッサージをしたりすると唾液が溜まりやすくなるよ。」と教えていただき、実践するとすぐに溜めることができました。私も先輩方のように、患者さんが困っていれば、すぐに変化に気づきアドバイスができるようになりたいと感じました。他にも、高齢者への指導の時は若年者に比べ、唾液が出にくいいため唾液腺マッサージを勧める方が効果的だと教えていただきました。

実際に診療が始まると、スムーズに施術内容を説明していただき、最初に口腔内写真を撮影していただきました。1つの作業をするたびに「何をするのか」「どういう内容のものか」など説明していただき、安心して、落ち着いて施術を受けることができました。また、「顎が疲れていないか」「今痛みはないか」などの患者

に対する声掛けも積極的で、患者役としてとても話しやすい環境でした。そのため、不安があるとすぐ言い出すことができました。これは、恐怖心や苦手意識を持つ方が多い歯科患者に対してとても必要な行動だと感じました。施術後には、これからもっと綺麗な歯を維持するために適したブラッシング方法や、使用する歯ブラシ、補助的用具を教えてくださいました。

2回目の3年生指導でも、医療面接とバイタル測定をしていただきました。前回からの変化や口腔内で気になっているところを中心に、一人一人に合った方法で施術をしてくださいました。気になっていた部分も改善され、とても嬉しかったです。

このことから、患者さん一人一人で口腔状態が違うため、その方にあった方法で施術を行うことや、そのために施術の時からしっかり口腔内の観察をしておくことが大切だと感じました。

今回の実習で患者さんの立場になってみて、感じたことを忘れず、私が3年生になった時や歯科衛生士になった時に活かしたいと思いました。そして、私も先輩方のように患者さんに安心して施術を受けてもらえるような歯科衛生士を目指して、勉学に励みたいです。





1 年次研修旅行を終えて

第54回生 平良 花奈

私たち54回生は、令和5年7月5日に京都へ日帰り研修旅行に行きました。初めて同級生とバスに乗り、遠くへ学びに行く時間はとても楽しいひと時になりました。

午前中は、株式会社モリタ製作所へ行きました。そこで私たちは、昔のチェアから最新の器具やチェアなどを見させてもらったり、それらが製作される工場の中を案内してもらいました。私は初めて、器具やチェアの種類の多さやそれぞれ違う特徴を知りました。ヘッドの横から器具を取り出せるチェアや、車椅子の患者さんが乗り降りしやすいものなど、患者さんが座りやすく、不安を取り除けるような工夫を取り入れながら製作しているんだと感じました。少しずつ使いやすいように改良を繰り返し、試行錯誤をしながら、今のチェアができたことを知り、快適で効率的な治療に繋がっていると思いました。他にも、治療の練習のため使用する人形に触らせてもらったり、展示室などを見させてもらい、みんなも楽しそうに見学をしていました。敷地はとても広く、慣れない格好で歩き回るのはとても大変でしたが、なかなか見学することのできない工場見学ができてとても素敵な経験になりました。

見学が終わり、kiyomizu 京都嵐山でテーブルマナー研修を受けました。ナプキンの使い方や、カトラリーの順番など普段の食事では学ぶことのできないたくさんのことを知ることができました。A・Bクラスが混ざった座席だったため、普段は話すことのない同級生とも話す機会ができ、会話をしながら楽しく美味しい食事をいただくことができました。乾杯の仕方などをクイズ方式で分かりやすく説明していただ

き、綺麗な食事の方法を知ることができました。テーブルマナー研修は失礼のないように振る舞う堅苦しいものだと思っていましたが、みんなで食事を楽しむための1つの要素だということが分かりました。大人になった私たちが社会で生活していく上で必要となるマナーを学ぶことができ、とても良い経験ができました。テーブルマナー研修の後は、研修旅行委員で考えた学院の先生方に関するクイズなどをしました。司会をするのは緊張しましたが、みんなが盛り上がってくれて良かったです。

午後から、丸益西村屋で友禅染体験をしました。エプロンをつけ、どんな色に塗るのかなどを話しながら楽しく友禅染ができました。

この研修旅行で新しい知識を身につけ、新しい友達ができ、楽しい思い出ができました。これから試験も増え、難しいこともあり、大変だと思いますが、仲間と一緒に頑張ります。





プレ臨床実習で学んだこと

第53回生 貴田 日向葵

私は4月11日から10日間、垂水区にある坂口歯科クリニックへプレ臨床実習に行きました。坂口歯科クリニックはう蝕の治療や歯のクリーニングといった一般的な治療の他にもインプラントや矯正治療、ホワイトニングなどあらゆる歯科治療に対応されており、老若男女問わずさまざまな世代の患者様に愛されている歯科医院でした。

初めての臨床実習はすごく不安がいっぱいで、1年生で学んだ知識は身につけて理解できているのか、治療のアシスタントはしっかりつけるのか、など思うところがたくさんありました。不安はありましたが、自分の全力を出し切って積極的に取り組もうと臨床実習に挑みました。臨床実習が始まって2、3日は治療の流れを把握しメモを取ることに精一杯で、院長や歯科衛生士の方々に質問することができませんでした。毎日その日に記入する実習日誌は、治療の詳しい流れが分からなかったり、何故このような治療をしているのか分からず、実習日誌を提出しても再提出になる日々でした。日が経つにつれだんだん治療の流れや内容が分かるようになり、積極的に質問をできる余裕が生まれ、何故このような治療をしているのか自分なりに分かるようになっていきました。

坂口歯科クリニックでは見学だけでなく、患者誘導、チェア準備、チェア拭掃を見学させていただきました。患者誘導では耳が聞こえづらい、杖をついているなどさまざまな障がいをもった患者様がいたので、そういった患者様には自分の腕を持ってもらうこと、障害物を置かないようにすること、ゆっくり大きな声で話すことなど快適に治療を受けてもらうための患

者配慮を歯科衛生士の方々にたくさん教えていただきました。また、歯科衛生士の方々は患者様とのコミュニケーションをすごく大切にしていました。その日の服装や顔色、様子などから患者様の変化にいち早く気づき患者様のお話を親身になって聞いている姿を見て、こういうところから患者様との信頼関係を築いていることが分かりました。患者様との信頼関係は歯科治療においてすごく大切なものだと思うので勉強になりました。患者様のことを1番に考え、常に周りを見て行動されている坂口歯科クリニックの歯科衛生士さんの姿を見て私もこんな歯科衛生士になりたいと強く思いました。

10日間の実習でセメント練和、印象練和、歯周検査の記録、インプラント手術の見学、歯面研磨などたくさんの方々のことを実習させていただきました。実習中は院長や先生方、歯科衛生士の方々が声をかけてくださり質問しやすい環境を作ってくれました。質問すると見学しているだけではわからない細かいところまで教えてくださったので、より知識を深めることができました。プレ臨床実習後の講義内容は以前より頭に入りやすくなり、身につくようになりました。

今回のプレ臨床実習では歯科衛生士の業務内容を理解することができ、あまり経験できない貴重な実習をさせていただきました。自分の知識不足や技術不足を改めて認識することができ、たくさんの反省点を見つけることができました。患者様への配慮や治療の円滑な進め方などたくさんの方々のことを学ぶことができたので、本当に感謝しています。来年の本実習では、今回学んだことを活かし多くの知識や技術を身につけ成長した姿をお見せできるよう頑張りたいです。



プレ臨床実習で学んだこと

第53回生 増田 小桜

私は4月11日からプレ臨床実習で10日間、加古川市にある山村歯科に行かせていただきました。山村歯科は一般歯科、インプラント治療、ホワイトニング、矯正などさまざまな治療を行われており、幅広い年齢層の方が通院され地域に密着し、患者様とのコミュニケーションをとっても大切にされている歯科医院でした。

初めての臨床実習で楽しみな気持ちも少しある反面、歯科医院でのアルバイト経験もなく私の浅い知識と技術で無事乗り切ることができるのか、不安な気持ちの方が大きかったです。しかし、院長先生や歯科衛生士の方が優しく指導して下さり、徐々に緊張も和らいでいきました。実習初日は、帰宅してから実習日誌を書くことに頭がいっぱいで、自分から行動する余裕もなく術式をメモすることに必死でした。しかし、日が経つにつれ歯科衛生士さんに自分から質問し、施術の一連の流れやパステクニック、施術に使用する器具などにも目を向けることができるようになりました。

山村歯科では見学だけでなく、初日からバキューム操作や片付け、準備などをさせていただきました。アシストに付かせていただいた際、術者の邪魔にならないようにと意識しすぎて、患者様の口腔内に唾液と水が溜まっていたり、患者様に負担をかけてしまうことがありました。そんな時、自分のことで精一杯にならずもっと周りを見て行動することや患者様への配慮、補助の仕方、どうしたら診療がスムーズに進むのかなど、視野を広くもち対応する大切さと難しさを学ぶことができました。そして、実際に患者様の口腔内を見せていただけた事で、人によって口腔内の環境が違うためどうすれば

よいかを自分で考え、臨機応変に対応できるような歯科衛生士になりたいと思うようになりました。また、2年生で習う義歯やインプラント治療の症例も見学させていただきました。教本で修得する知識に加え、実際に見学することで理解を深めることができました。患者様が大変喜ばれている様子や、院長先生や歯科衛生士の方に感謝されている様子を見て、歯科衛生士の仕事の魅力ややりがいを見つけることができました。

今回のプレ臨床実習を通して、歯周検査の記録やCRの補助、アルジネート印象材の練和、患者誘導などさまざまな実習をさせていただきました。その中で、院長先生や歯科衛生士の方々が器具の名称やこういった場面で使用するかなどを丁寧に教えてくださったお陰で、知識を深めることができました。また、実際に治療を見学したことでその場面がイメージしやすくなり、以前より授業の内容が頭に入りやすくなりました。この10日間で、歯科衛生士の業務内容をより理解することができ、学校では経験できない貴重な経験をさせていただきました。また、自分の知識や技術不足を認識することで、多くの反省点や課題を見つけることができました。今後に向けて、立派な歯科衛生士を目指すべく自分自身を高めることができ、とても充実した実習となりました。緊張と不安でいっぱいだった私に、優しく教えてくださった院長先生や歯科衛生士の方々にはとても感謝しています。今回学んだことを土台に、さらに多くの知識や技術を身につけ、本実習では成長した姿を見ていただけるよう、これからも頑張りたいです。



歯と口の健康週間を終えて（幼稚園班）

第53回生 林根 凜

6月の歯と口の健康週間に行われた小集団指導で、私は幼稚園班を担当しました。

私たちの班は、まず乳歯列期である子どもたちに歯の大切さや生活に潜んでいるう蝕のリスク、歯磨きに関心をもってもらうためにはどうすれば良いかを相談しながら進めました。その中では、限られた時間内に子どもたちにどのように感じてもらい、どのように伝えるべきか、また、園児たちの心を掴むための分かりやすい題材や目を引くような媒体を考え、たくさん意見を出し合いました。班員のさまざまな思いが交錯し、より分かりやすく簡略にまとめることがとても難しかったのですが、良いアイデアもたくさん出てきて私たちの劇は完成しました。

春休みも学校に通い、時には学校が閉門するまで準備をすることもありましたが、なかなか個々の予定が合わず班員全員が集まれる日がとても少なかったので実習日が近づいてくるにつれて焦りや不安が募りました。準備期間を含めて約半年間、班員全員で意見交換を行い、媒体を作成し本番に向けて力を合わせて練習しましたが、先生の合格をいただけたのは本番を迎える前日でした。

迎えた実習初日、緊張で行く道中は、何度も何度も媒体の動きや台詞、声の抑揚やテンポなど細かい所まで頭の中で確認しながら向かいました。私は、劇を通じて口腔内に興味を持ってもらえると、劇終了後のブラッシング指導にも積極的に参加してもらえるのではないかと考えていました。また、楽しかったという印象があれば、家庭での会話や歯磨きを好きになるきっかけ作りにもなるだろうし、面白かったという印象があれば、お友達との遊びなどにも繋がりが、歯科に対するマイナスのイメージが変わるのではないかと考えていました。

始まる前は最後までしっかりできるかと不安でしたが始めてみると、学校で練習した時に

は味わえなかった子どもたちの元気な反応を貰えてとても嬉しく頑張った良かったと思いました。2日目以降は、反省することも多かったのですが、先生方からのアドバイスや班員で話し合うことで、回数を重ねるごとにより良いものに仕上がっていきました。

はじめは、知識も経験も乏しい私たちが行う集団指導の準備は、しんどくて大変で面倒だと思いましたが、苦戦しながらやっとの思いで完成させた劇は自分自身を成長させてくれるものであり、大変貴重な経験となりました。個人として、反省点もたくさんありましたが、これ以上ない達成感がありました。誰かのために何かを伝えるのは簡単ではなく、それを相手に届け、心に響くように伝えるためには、たくさんの知識を持ち、相手のことを理解することが必要であり、さらに信頼関係を構築することが重要であることを学びました。

今後、理想とする歯科衛生士に近づくため、今回の実習で学んだことを活かし、更に知識や技術、経験を身につけられるように学校生活を送りたいです。





歯と口の健康週間を終えて（小学生班）

第53回生 池田 綾乃

私は歯と口の健康週間で小学1年生の小集団指導を担当しました。小集団指導の準備は、1年生の12月から始まり、半年間かけて対象年齢に応じた内容の台本作りや、劇で使用する媒体を作成しました。キャラクターなど、どう工夫すれば楽しく聞いてくれるか考えながら行いました。学内で学んできた知識や、今までの先輩が作成した台本も大変参考になりました。しかし、児童の気持ちや理解度を考えながら台本を作成するのはとても難しく、担当教員と何度も打ち合わせをし、訂正を繰り返しながら完成させました。その中で私たちのグループは、台本通りに進めると20分以内に収まりきらないことが課題でした。台本を何度も読み合わせて時間内に収まるように工夫し、学校により児童の反応が異なることでどのくらい時間がかかるのか全く読めない中、班員同士で協力し試行錯誤しながら練習を行いました。実際に小学生の前に立つと想像以上に緊張し、練習のように上手くスムーズに行うことができている日が続きました。声を張ることはできても、抑揚をつけキャラクターになりきり、伝えていくことが難しく永遠の課題でした。しかし、児童の反応は劇が始まると予想以上にキャラクターに反応があり、クイズに対しても元気いっぱいの反応がありました。そのおかげで、班員全員の緊張もほぐれリラックスして進められ、時間内に終わらせることができました。訪問する小学校により児童の雰囲気や人数、担任の先生の指導の仕方が異なり、毎日が新鮮で同じ内容の劇をしていても日々改善点が生まれました。私たちにとっては毎日同じ内容の小集団指導を行いますが、児童にとって歯のお勉強をするのは一回きりなので、毎日の45分間を大事にしようという

意識が強くなりました。そして私が感じた1番の問題点は、小学校で使用させていただく設備でした。小学1年生の机の高さは想像していた以上に低く、限られた備品の中での暗幕の設置はとても大変でした。完璧に劇を行うために、どのような環境でも対応できるようにさまざまなシチュエーションを想定して練習しておくことが必要でした。しかし、毎回予想以上の反応が返ってきて、とても楽しく達成感のある小集団指導でした。

今回の小集団指導を終えて、班員とのコミュニケーションや、補助で助けてくれるメンバーと協力することの大切さを学びました。個々がより良いものにしたいという気持ちが高かったので意識も高まり成長に繋がったと思います。また臨機応変に行動することの大切さとともに、児童に指導する難しさも学ぶことができました。1年生の終わりから2年生の6月までと期間だけで見ると長く感じますが、小学生に伝えることだけを学べるといふことや小学生から教わることの方が多く、とても有意義な時間を過ごせました。今回学んだことを今後の臨床実習や自身の生活に取り入れて活かしていきたいです。





歯と口の健康週間を終えて（高齢者班）

第53回生 初村 優奈

6月1日から22日まで行われた「歯と口の健康週間」で、私たち高齢者班は班員8名で高齢者施設に訪問し、人間劇「おむすびころりん、入れ歯もころりん」を演じました。小集団指導の準備は1年生の1月から始まり、まずはじめに媒体や台本の作成を行いました。耳だけでなく目でも楽しめるように媒体は全て大きなもので、作成に多くの時間がかかりました。媒体が完成し劇の練習に取り掛かり始めた後も、高齢者の方が見えやすいように何度も媒体の修正を行いました。また、台本は高齢者の方に「入れ歯の手入れの仕方」「歯の磨き方」「誤嚥性肺炎について」など大切なことをしっかり伝えられるような言葉選びを意識しました。劇の練習を始めた頃は恥ずかしさから上手く演じることができずにいましたが、楽しみに待っていて下さる高齢者の方々に良い劇を観てもらいたいという思いで練習に励みました。小集団が始まり課題となったのが、毎回会場の広さや形が変わることです。そのため私たちは事前に細かく確認し会場によって媒体を動かしたり椅子に登ったりどの角度からも劇を楽しんでいただけるよう工夫しました。セリフの速さや声の大きさトーンについても施設の方にアドバイスをいただきながら改善を重ねていきました。劇の途中では誤嚥性肺炎を予防するお口の体操を行い、観るだけではなく参加していただくことで、劇に対する興味を持ってもらえたのではないかと思います。またお口の体操時は班員の数名が高齢者の方々の近くにつき、目の前で口を動かしながら動きを説明し一緒に音楽に合わせて体操しました。その際高齢者の方とコミュニケーションを少し取ることができ、みなさんが劇を

楽しんで下さっているのを感じることができました。劇の終了後には義歯を洗浄させていただいたのですが、普段はあまりお手入れをしないという方が多かったので一人一人に直接お手入れ方法の指導を行うことができました。新型コロナウイルス感染拡大予防のため義歯の洗浄を行うのが難しいという施設もありましたが、その分お口の体操の時間を長く取ったりと臨機応変に対応することができました。普段は高齢者の方とコミュニケーションを取る機会が少なかった私たちですが、今回の小集団を経て初日から最終日までの間に言葉遣いだけでなく、表情や手振り身振りなどで工夫し一人一人に合ったコミュニケーションの取り方を学びました。また、班員同士のコミュニケーションにおいてはお互いを思いやり、伝え方を工夫することが大切だと学びました。反省会の際は全員がそれぞれ意見を出し改善すべきところを話し合うことでみんなが同じモチベーションで取り組むことができました。小集団を通して学んだ相手に合わせたコミュニケーションの取り方や伝え方の工夫を、今後の臨床実習や学校生活にも繋げていきたいです。





歯と口の健康週間を終えて（イベント）

第53回生 馬本 聖菜

私は歯と口の健康週間の行事として6月4日に川西市で行われた「歯と口の健康フェア」に参加させていただきました。

色々項目がある中でも私がお手伝いさせていただいたのは歯科検診です。歯科検診では歯科医師による問診、カリエス検査が行われ、検診の結果によって患者さんにブラッシング法の指導や歯科医院の受診を勧めるなどでした。また、歯科衛生士さんが行っているチャート記入もさせてもらいました。チャート記入では歯科医師が検査した部位を的確に用紙に記入する必要があります。そのため、先生のスピードに合わせることや、間違えずに記入することが難しかったです。問診票の記入では患者さんの目線に合わせて問診することを心がけました。例えば、患者さんの目の前から問診すると緊張してしまうので斜め前から話しかけ、できるだけ緊張がほぐれるよう心がけました。また、問診する側が笑顔で問いかけていると患者さんも必然と笑顔になっていたと感じました。

特に今回の実習で学んだことは、歯科衛生士さんが行っていた口腔衛生指導です。その中でもブラッシング指導にはとても力を入れていました。ブラッシング指導は患者さんとコミュニケーションを取りながら信頼関係を築いた上で患者さんの口腔内を見て適した指導をしなければならぬ歯科衛生士にとって大切な業務の1つです。今回は主にスクラビング法、バス法、一歯ずつの縦磨き法を用いて指導をされていました。

スクラビング法は歯と歯の間をしっかりと清掃することができ、プラークを除去しやすいため子供から大人の幅広い方に勧められていました。

バス法は歯周ポケットの中の汚れを掃除できることと、歯肉マッサージ効果があるため歯周

病や歯肉炎でポケットが深いところや出血、腫れている方のケアとして勧められていました。

一歯ずつの縦磨き法は歯間部のプラーク除去の効果が高いため歯列不正のある方、歯間空隙が大きい方、軽度の歯肉炎がある方に勧められていました。

学校の授業でどれも習った磨き方でしたが実際にさまざまな患者さんを前にすると、どの磨き方を提案すればいいのか分からなく、患者指導の難しさを感じました。

今回、見学や体験をさせていただいて、歯科衛生士さんが患者さんの目線に合わせまずはコミュニケーションをとり信頼関係を築いていくことが必要だと感じました。その上で口腔衛生状態を把握し口腔内を綺麗に保てるよう指導することは、口腔内の健康だけでなく全身の健康状態にも繋がるということも、患者さんに伝えなければならぬと改めて思いました。患者さんに理解してもらうことは難しいですが、少しでも理解して貰えるよう、分かりやすい説明を行い、指導する側がきちんと理解しておかなければなりません。3年時の臨床実習では、今回学んだことを活かすことができるように日々の勉強を怠らずに取り組んで行きたいです。





2年次研修旅行を終えて

第53回生 守田 歩未

私は11月7・8日に研修旅行に行きました。1日目はディズニーシー、2日目は株式会社GCの研修会でした。この2日間はとても充実した時間を過ごせました。

まず1日目はディズニーシーに行き、友人たちとアトラクションに乗ったりパレードを見たりしました。ホテルでの点呼までの間が自由行動だったので、色んなアトラクションに乗ったりパレードを見たりお土産屋に行ったり楽しかったです。閉園まで遊べたのでとても充実した一日でした。夜は研修旅行委員で一度集まり、次の日のレクリエーションの準備や確認をしました。

2日目はまず朝は宿泊していたホテルのビュッフェを食べました。メニュー数が多く友人たちと何を食べようかと悩んだりしながら皆で食べるご飯は美味しかったです。

朝食後はGCの研修会に行きました。GCの研修会ではAクラスとBクラスに分かれて、歯科材料の正しい取り扱いについての話とセメント練和実習をするクラスと、館内見学をするクラスに分かれて行いました。

私はBクラスだったのでまず館内見学から行きました。館内見学ではまずチェアーを見に行きました。GCは歯科材料のイメージがあったのでチェアーも製造していることを初めて知りました。チェアーの椅子はアスリートが使用するマットの素材を使用しているので座り心地が良いと聞きました。またチェアーを起こしたらスピットンが含嗽しやすい位置に動いて、ライトは患者に当たらないように自動に動いたことに驚きました。次にセメントを自動で練れる機械を見ました。これがあったら歯科衛生士が練和する作業が減ると思いましたが、値段が高く自費診療でしか使用できないらしく、日本より海外で人気だそうです。シェイクミックスの気泡が抜ける所も見ました。5分間で固まる間に

大きい気泡も全て消えていて綺麗な石膏ができていました。最後にMIペーストの話をお聞きしました。MIペーストは歯のコーティングをして再石灰化をするものだと知りました。私自身歯が脱灰しているところがあるのでとても興味がありました。

次に、クラス入れ替えで歯科材料の正しい取り扱い実習、セメント練和学習を行いました。話を聞いて驚いたことが、練和紙には材料によって種類が色々あることです。普通の紙練板以外に、セメントに入っている油が染み込まないように練和紙にコーティングが施してあるものがあり、破れにくいそうです。だからセメントに合った練和紙を使用するようにします。そしてジージーフジIXGPエクストラを実際に練和しました。粉を2分割にしてから液と混ぜ、最初は液と粉が混ざるように軽く混ぜてそれから強く混ぜることが大切と教えていただきました。スパチュラはしなりが良いので強く圧をかけても折れないことも知りました。私はセメント練和が苦手ですが、手順通りに行ったら上手に練れたので嬉しかったです。

今回の研修旅行で、友人との思い出ができたこと、GCで色んなことを学べたりしてとても充実した旅行でした。これからはテストや実習もあるので頭を切り替えて頑張ります。





国際ソロプチミスト「夢を生きる女性のための教育訓練賞」をいただいて

第52回生 久代 道子

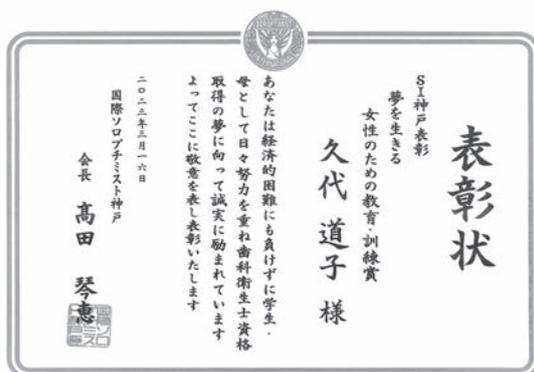
この度、国際ソロプチミストアメリカ連盟プログラム「夢を生きる女性のための教育訓練賞」をいただくことができました。このような名誉ある賞を受けることができ非常に光栄に思うのと同時にサポートしていただいた先生方には深く感謝しております。

この賞は資格を取得する為に大学・短期大学・専門学校に在学し、人生のさまざまな試練に遭遇しながらも、新たな人生を切り開こうとしている、経済的な支援が必要な女性を対象に授与されるものです。この賞のお話をいただいた時、書類や作文を提出しなければならなかったのが自分には無理だとお伝えしました。シングルマザーで3人の子供がおり、学校に通うこと自体が大変だったからです。家事、育事、学校の時間管理がうまくできず、心配事も多くどうしても集中力が散漫になってしまうことがありました。ですが先生方が背中を押してくださり、前向きに考えることができ、この賞をいただけたと思っています。

入学当時は子育てをするのにただ何かの資格が欲しいという気持ちだけでもっていました。しかし、今は違います。学校で歯や口に関することから全身のこと、接遇マナーやコミュニケーションのとり方、そして実技の習得など、さまざまなことを学び成長していく自分にも気づ

き立派な歯科衛生士になりたいと強く思うようになりました。その中でもとくにコミュニケーションの取り方は、子供の目線と高さを合わせて話をすることや、Tell.Show.Do 法などを学び、既に自身の子育てにも生かせることができているし、なりたい歯科衛生士像に近づけていると思嬉しくなります。また、科目としての学びだけでなく、日々の学校生活を送る中で、さまざまな人とコミュニケーションをとることで、自身の人間力も高めてもらっています。子供たちに優しく楽しく指導ができる歯科衛生士になるということに役立つと思日々過ごしています。

学院でさまざまな場で活躍されている歯科衛生士の方々のご講義を聴講し、私が入学前に漠然と考えていた歯科衛生士像よりも、たくさんの活躍できる場があることを知りました。そして医療従事者の一員として、歯科だけの知識では無く、医療の進歩に合わせ、最新の情報を取り入れていく必要性を感じています。学院での生活も残り僅かとなりましたが、残りの臨地・臨床実習では、今まで学んできたことを結びつけ、より深い知識と技術を身につけていきたいと思います。国家試験対策にも力を入れ、取りこみ52回生全員が合格できるように励まし合いながら頑張りたいと思います。



1年生指導を行って

第52回生 山田 陽菜

3年生になり、歯周病予防処置のまとめ実習として「1年生指導」を行いました。これは、私たち3年生が入学して間もない1年生に対して、医療面接、口腔内観察などを行い自ら計画を立案し実施・指導を行っていくという実習でした。今までの相互実習は2年間共に過ごしてきた同級生と行っていたため会話も行いやすく、スムーズに実習を進めることができていました。しかし今回は、初対面の1年生に対して介入を行うため、上手くコミュニケーションを取ることができるのか、1年生にとって意味のある実習にすることができるのか不安な気持ちがありました。2年前、私たちも3年生の先輩に実習を通して指導をしていただきました。当時のことを振り返ると、まだ何の知識も無い状態で先輩と実習を行う事に対して不安と緊張でいっぱいだった事を思い出しました。1年生にとって学びのある実習になるように今持っている知識を最大限に活かそうという思いを持ち、実習に臨みました。

1年生指導の実習を行うにあたってとても役に立ったのが、2年生の最後に行った「諸検査」というまとめ実習でした。この実習でも自ら計画を立てて施術を行いました。医療面接や、歯周組織検査を通して患者さんの問題点を見つけ、その人に合った施術内容を選択していく事は難しく、実習帳の作成も大変でしたが、全ての実習が終わった後はとても達成感を感じました。計画の立案方法や指導内容、目標の設定など、この諸検査の実習で学んだ事が1年生指導でとても参考になりました。

1年生指導ではまず、医療面接でのコミュニケーションを通して1年生の緊張が和らぐような雰囲気作りを心がけました。質問を行う時は、開かれた質問を意識し会話が進むようにす

ることで初対面でも楽しくコミュニケーションを取ることができ、充実した時間を過ごすことができました。それから、言葉遣いにも気を付けました。私たちは2年間勉強を積み重ねて当たり前のように専門用語を使用していますが、1年生には理解が難しく誰にでも分かるような言葉で説明をすることの重要性を学びました。チャートを用いてフロスの指導を行った際、1年生がとても良く理解をしてくれて歯科保健指導の楽しさを実感しました。さらに2回目の検査では、PCR値が下がっていたりブラッシングにも変化が見られ歯科衛生士の業務のやりがいを感じる事ができました。

1年生指導を通して私が得たものはたくさんありました。まずはコミュニケーションの重要性です。初対面の患者さんには最初の印象がとても大切です。患者さんが自分の悩みや考えを話しやすい環境を作ることが大切だと感じました。それから、歯科衛生士が行う予防業務と、歯科保健指導のやりがいを実感しました。問診から指導までを行い、患者さんの問題点が改善されると自分の自信にも繋がりました。今回の実習で学んだことを活かし、患者さんと信頼関係を築いていけるような歯科衛生士を目指します。



クリニカルトレーニングセレモニーを終えて

第52回生 平郡 柚颯

私は2年前の5月、兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院に入学して約1ヶ月で3年生のクリニカルトレーニングセレモニーに参加しました。初めて見るセレモニーで、3年生の代表者が壇上で誓いを読み上げる姿、先輩方全員の凛とした姿にとっても感動しました。当時は自分が3年生になるのはまだまだ先のことだと感じていました。

2年生に進級し、1年生の時より確実に難しくなる授業、相互実習、単位修得試験、その上、国家試験対策ととにかく目まぐるしい日々を過ごしました。1年生では基礎科目がほとんどだった授業も2年生では臨床科目が増え、毎週、単位修得試験という時期もありました。試験結果が張り出される度、ドキドキ緊張しながら結果を確認していました。ハードな毎日でしたが知識、技術ともに少しずつレベルアップしていき、歯科衛生士に近づいていることを実感していました。あっという間に1年が過ぎ、無事3年生へと進級し、臨床実習が目前まで迫ってきました。臨床実習に向け、改めて気を引き締めていかなければならないという思いと、このままで乗り越えられるのかという不安を感じました。

5月16日に行われたクリニカルトレーニングセレモニーでは新型コロナウイルス感染対策のためマスク着用のうえ電池式のキャンドルを使用し、代表者のみキャンドルの火を灯しました。ナイチンゲール像から灯をいただき、分灯していく様子を最前列で見て、3年生だという実感が湧きました。私は代表として誓いを読ませていただきました。とても緊張しながらの本番でしたが無事、誓いを読み上げた時に臨床実

習への覚悟を持つことができました。

3年生最後の学内実習では1年生指導を行いました。3年生と1年生の人数に差があり、2名で1名の対象者を担当するペアもありました。各自が対象者について一生懸命考える実りある実習になったと思います。

新型コロナウイルス感染症による制限も徐々に緩和されつつある中で臨床実習に行かせていただくことで、間近に患者さんの口腔内を観察させていただき、アシスタントや実習などたくさんの方の経験させていただける臨床実習になりました。実際に治療を見学させていただくと授業の内容と繋がっていることを実感することができ、さらに理解を深めることができたように思います。

同じ治療内容でも流れや使用器具が異なり、戸惑うことも多くありましたが、毎日の実習が新鮮で貴重な時間だと改めて感じました。残りの実習でもたくさんの方の経験を吸収できるよう毎日を大切に、臨床実習で学んだことを国家試験に繋げられるように頑張りたいと思います。





臨床実習で学んだこと（センター）

第52回生 小道 由依

私は2023年3月に尼崎歯科医師会尼崎口腔衛生センターへ見学臨床実習に行かせていただきました。

尼崎口腔衛生センターでは休日救急歯科診療・むし歯予防処置・歯周疾患検診・訪問歯科診療・事業所健診・酸蝕症健診などさまざまな事業で地域の口腔健康の維持に取り組んでいます。その中でも特に障がい者（児）歯科診療に力を入れており、一般診療所で治療困難な方に対して歯科治療を行っています。障がいの程度も幅広く、一般の診療室で治療可能な方から静脈内鎮静・静脈麻酔下での治療が必要な方までさまざまでしたが、その患者さん一人一人に合わせた対応を行っていました。

これまで障害者歯科の座学では秒数を数えて終わる目処を立てることによって安心してもらうというカウント法や Tell Show Do 法など画一的な対処法を学びましたが、実際は患者さんによって有効な対処法はバラバラであり、その方にあった方法を組み合わせることで処置を行っていました。例えば自閉症の患者さんは新しい環境になるとパニックになるためルーティーンが非常に大事になります。ある患者さんは治療に入る前に急に診療室中を逃げ回って何度も受付と診療室を往来し、最終的に静脈鎮静で治療を受けていました。初めて見た私は驚いてしまいましたが、後から歯科衛生士さんから、その患者さんは「逃げ出して走り回ってから治療を受ける」というルーティーンがあり、時間・走るルートも決まっているということを教えていただきました。

そのほかにも歯科衛生士さんはそれぞれの患者さんの特性を理解して対応されており、一人一人に合わせて声掛けを変えていました。

また、歯科診療の一環としての歯科衛生士業

務以外の業務の幅広さに圧倒されました。障がい者の患者さんの口腔衛生状態を維持するためには、その患者さんに日々ブラッシングをおこなう人に歯科衛生指導をおこなう必要があります。通常はキーパーソンが家族のことが多いですが、グループホームなどの施設に入所している場合は施設の方になります。私が見学させていただいていた時はホームに入所予定の患者さんがおられ、キーパーソンを含め環境が大きく変わることの引継ぎなど、患者さんの背景に合わせた業務を知ることができ、大変勉強になりました。

今回の実習を通して、まず私自身の病気や障がいに対する知識不足を実感しました。当然ですが、運動障害のみで知的障害がない方と知的障害の方では説明や接し方が全く異なりますが、恥ずかしながら私はそのことも理解できていませんでした。歯科衛生士としての技術や知識を習得することはもちろんですが、患者さんの障がいについて理解し、何が苦手でどの様にしたら治療を受けてくれるのかを考えながら対応する必要を感じました。

また、患者さん一人一人にあった治療計画及び環境作りのために、患者さんだけでなく付き添いの方やご家族ともコミュニケーションを取り患者さんの生活背景や環境を知るための情報収集も歯科衛生士にとって大事な仕事だと学びました。

今回の実習では一般歯科では見ることができない患者さんに寄り添う姿勢や、障害者歯科の基礎知識を学ぶことができる大変貴重な経験となりました。

今回吸収したことや感じたことを忘れず、将来歯科衛生士として臨床の場で活かしていきたいと思います。



臨床実習で学んだこと（矯正）

第52回生 青山 澄香

私は矯正見学実習で、夙川にある美帆矯正歯科クリニックに行かせていただきました。院内はとても綺麗に整理されており、院長の廣瀬先生だけでなく、歯科衛生士さんや他のスタッフの方にもとても優しく教えていただきました。実習は2日間と短く、実習時間は実習先の診療時間に合わせて実習を行うため、短い時間の中で矯正歯科の雰囲気を感じ、講義で学んだ知識を改めて理解し、矯正歯科診療における歯科衛生士の役割を学ぶため、しっかりと見学させていただくことを目標として実習に臨みました。

1日目の実習では、美帆矯正歯科クリニックではどのような矯正治療が行われているのか、矯正治療の説明内容や、矯正治療で主に使用されている器具などを医院でまとめた資料をいただき、それをもとに説明をしていただきました。その後、見学させていただける患者さんが来られるまで、いただいた資料を読み込み、持参した教本と照らし合わせて使用する器具をどんな時に使うのかなど、改めて知識を深めることができました。診療見学や資料では分からない部分の質問をすると、とても丁寧に教えて下さいました。治療の見学後にはその患者さんに使用した器具を見せてくださり、器具の形状についても学ぶことができました。

見学時には術者付近で操作を見学させていただいたため、一つ一つの器具の使用法や実際にどのように操作を行っているのか、詳しく学ぶことができました。美帆矯正歯科クリニックは、効率的に業務を行うためチェック表を使用されていました。先生が来られるまでの間に、前回からの変化、今回行うであろう治療内容をチェック表に記入し、結紮線の除去や歯面研

磨を行っておられました。その他、矯正歯科医院での歯科衛生士の役割が想像よりも遥かに多く、とても驚きました。

今回の矯正歯科診療の見学実習をさせていただいた事で、講義の際に学んだ器具の使い方や動かし方、矯正治療の流れを理解し、どのように行っているかのイメージができるようになりました。

矯正歯科診療では治療期間が長期にわたるため、患者さんとの信頼関係を築く事が重要になると思いました。患者さんの普段の生活や性格にも目を向け、細やかな事に気を配ることが大切だと感じました。医院によって異なる部分もありますが、矯正歯科医院では矯正のみを行い、定期検診や抜歯は他の歯科医院でお願いしている医院もあります。患者さんの口腔内の状況や性格、生活背景を知ることにより密接になり、患者さん一人一人に適した指導や提案ができるという事が学べ、とても良い実習になりました。



臨床実習で学んだこと（開業医）

第52回生 宮崎 涼

私は、7月の18日間、夙川にある松岡歯科に実習に行かせていただきました。

松岡歯科では一般歯科や小児歯科、インプラントなどさまざまな分野の診療をされており子供から高齢者まで幅広い年齢層の患者さんが来院されていました。

松岡歯科では特に礼儀や言葉遣い、マナーなど患者さんへの対応を大切にされており、歯科医院で働くうえでの患者さんへの接し方について学ぶことができました。その中でも特に印象に残ったのが挨拶です。挨拶といっても状況によってさまざまな種類の挨拶があり、お辞儀の仕方、手の置き場所などその場面に合った挨拶の仕方を教えていただきました。

松岡歯科では治療が終わると「お疲れ様でございます」と待合室まで患者さんを誘導します。その間も患者さんが通りやすいよう動線を確保し、すれ違う時には全スタッフが足を止めて挨拶を行います。過去に通っていた医院を思い出しても、ここまで丁寧な挨拶をされている歯科医院は見たことがなかったので驚きました。ですが、挨拶をされるたび患者さんが笑顔になるのを見て改めて挨拶の大切さを感じ、手を止めて、目を見て丁寧な挨拶をすることで医院全体の雰囲気作りに繋がっていると感じました。

挨拶の他にも、患者さんの目元へのタオルのかけ方や外し方、タイミングなど細かいところまで患者さんの立場になって考えられていました。このような些細な配慮によって患者さんが気持ちよく過ごせる空間を作ることができており、その配慮の積み重ねが患者さんとの信頼関係を構築することに繋がると感じました。

丁寧な言葉遣いや対応は患者さんに対してだ

けでなく、スタッフ間でも誰に対しても敬語を使っていたのが印象的でした。また、院内では「ありがとうございます」という言葉を耳にすることが多く、全員が常に思いやりと感謝を持って過ごしていることが松岡歯科の雰囲気を作りあげているということがよくわかりました。

松岡歯科は毎日の患者数が多く、院内にある5台のチェアはほとんどの時間埋まるほど忙しかったのですが、院長や歯科衛生士の皆さんが時間をみつけて私たち実習生に丁寧に教えてくださいました。

歯科衛生士の方々は分からない部分を聞いて質問に答えてくださったり、なぜこの患者さんにこのような指導をしたのか患者さんの現在の状況を踏まえたうえで教えてください、患者さんの性格や生活背景を考えながら一人一人に合った指導を行うことが患者さんとの信頼関係を築くために大切であるということ、またそのためには常にアンテナを張って、患者さんとのなげない会話からも情報を集めていくことが大切であることを学ぶことができました。

院長は毎日時間を取って私たちに講義をしてくださいました。バキュームの方法や印象採得、歯周組織についてなど歯科衛生士としての基本はもちろん、患者さんとの信頼関係の築き方や心理学まで教えていただき楽しく学ぶことができました。

毎日たくさんのことを学ぶことができあつという間の1ヶ月でした。今回の実習では歯科衛生士という職業の大切さだけでなくやりがいや楽しさを感じることができました。

今回の実習で学んだことを忘れず、今後はさらに多くの知識を身につけ理想とする歯科衛生士になれるように頑張りたいと思います。

臨床実習で学んだこと（病院・口腔外科）

第52回生 山下 実来

私は7月の1ヶ月間、赤穂市民病院の口腔外科で実習をさせていただきました。学内での講義を受けて、病院では治療内容や患者さんの背景など、開業医とは違う歯科衛生士の業務があると学んでいたもので、初日はとても緊張して伺いました。私は病院の歯科口腔外科では、難抜歯や智歯抜歯の治療がメインだと考えており、事前に座学で学んだ知識の整理を行うために、抜歯鉗子の種類や滅菌グローブの着脱、縫合の準備などを復習しました。実際に1ヶ月間終えて分かったこと、学んだことや感じたことは、開業医院とは違い、病院に紹介されて来院される患者さんの背景はとても複雑で、歯科衛生士として患者さんに寄り添い、どのような支援ができるのかを考える毎日でした。そして、実習前に想像していたように開業医院で行われている一般的な歯科治療はほとんど行われず、難抜歯などの外科的治療や、インプラント治療、入院患者さんの口腔衛生管理などが主に行われていました。

実習期間中に、抜歯の準備をさせていただくことができました。準備時には、清潔不潔を考え、清潔な器具を汚染させないように持ち方を工夫したり、事前に治療内容を電子カルテで調べ、その治療に必要な器具を使用順に並べたりしました。私は器具の名前や術式を覚えているつもりでしたが、実際には理解できていなかったため、治療に用いる器具や必要な薬剤の名前や用途などを一致させておくことや、確実に術式を理解しておかなければいけなかったと事前学習の不足を反省しました。また、相互実習させていただく機会もあり、血圧計とパルスオキシメーターの装着方法、その際の声掛けや患者

配慮を教えてくださいました。事前に一言、声掛けをするだけで、急に何も言わずに行うのでは患者さんにとっては感じ方や治療前の緊張感が違うということ学びました。抜歯後の注意事項の説明では、事前に練習した上で患者さんに説明を行いました。患者さんを前にすると緊張と自信のなさから大事なところが抜けてしまいました。今後、臨床で患者さんに説明する時に緊張してはいけけないので経験を積み自信を持つことや慣れることも必要だと感じました。

入院中の口腔衛生管理では、意思疎通が困難な方や、吸引器を使用しないと誤嚥のリスクが高い患者さんの口腔衛生管理を行っていました。歯科衛生士の実際の対応や手技を見学させていただき、同じ口腔清掃でも、患者さんによって目的や方法が異なるため、具体的な口腔清掃方法や意思疎通が難しい患者さんとのコミュニケーションの取り方などを学ぶことができました。

オペ室では看護衣ではなくオペ着や靴下も履き替え、緊張感のもと長時間にわたる外科処置症例や難抜歯、顎関節症の手術などを見学させていただき、外来の診療室とは違う滅菌レベルでの行動を理解することができました。そして、直接介助・間接介助の看護師や麻酔医など他職種の仕事や連携を見学でき、とても貴重な経験をさせていただきました。

1ヶ月間、病院歯科での歯科衛生士業務を学ぶことができ、自分自身の成長に繋がったと思います。今後は、この経験を糧にさらなる知識と技術を身につけ、さまざまな患者さんへ対応できる歯科衛生士になりたいと思います。

市民救命士講習を受講して

第52回生 中山 愛香

夏休みも終わりを迎えた8月22日・23日の2日間で1人1回、神戸市消防局の方々から市民救命士講習 普通救命コースを受講しました。「救急救命」とは、つまり救急車が来るまでにすべき行動ということで今回はそれが何かを学びました。

講習は、初め応急手当の重要性についての講義でした。神戸市では「救急車を要請してから現場に到着する」までに約10分かかるといいます。そこで命が助かる可能性のグラフを見ると、心臓と呼吸が止まってから何もせず10分時間が経過した場合、助かる可能性は僅か5%ほどだということが見て取れました。それはその場に居合わせたわれわれの「一次救命処置」が大変重要であるということを示しています。私はもし居合わせた場合、1分1秒を争うため、即座に行動しようと決めました。そのためにはどのように「一次救命処置」を行うのかを知っておく必要があります。マネキン人形を使い、「反応・呼吸なし」の急病者を想定した心肺蘇生法を実施しました。大まかな流れは、①安全の確認②反応（意識）の確認③救急車の要請・AEDの手配④呼吸の確認⑤胸骨圧迫の実施⑥人工呼吸⑦AEDの装着です。難しかったのは、やはり⑤の胸骨圧迫です。1分間に100～120回のテンポで連続して30回の圧迫と人工呼吸とを繰り返すのですが、傷病者の胸が5cm下方に圧迫するにはかなりの力と体力が必要で、強く、速く、絶え間なく圧迫することが重要なため、できるならば2人以上で交代しながら行うのが望ましいとも学びました。その際、「あと3回で交代してください。3.2.1」とカウントを取ることでスムーズに交代できると指導員よりアドバイスを受け、なるほどと勉強になりました。また、テンポはそれよりも遅くなると意味がないようで、思っているよりも速いので、注意が必要です。

次に人工呼吸です。気道の確保は重要で、片方の手のひらを額に置き、もう一方の手の人差し指と中指を下顎の先の骨の部分に当て、頭を後ろにのけぞらせ顎先を持ち上げ気道を確保し

ます。その間に胸骨圧迫は中断していますが、中断時間が10秒以上にならないように行うため、素早く気道確保と人工呼吸を行う必要がありました。そしてAEDによる電気ショックの実施の模擬訓練を行いました。電極パッドの貼る位置についても詳しく説明していただき、よく理解することができました。心臓ペースメーカー、埋込み式除細動器が埋め込まれている場合は、盛り上がりから離れたところに電極パッドを貼ることや、湿布や汗などの水分で濡れている場合は、タオルなどで拭き取ってから行うことなど、傷病者の状況に合わせて適切な処置をすることが大切だと学びました。この模擬訓練は、「駅のホームで老人が倒れた場合を想定する」とテーマを決め行うことで、よりリアルな状況が想像でき、それに合った行動を心がけました。

今回学んだ経験から、私は心肺蘇生とAEDが必要な現場に居合わせた時は、迷わず119番・AEDの手配をし、呼吸がない場合は胸骨圧迫を素早く開始しようと思いました。また歯科衛生士として働く上で、患者が歯科治療中に突然のアレルギー反応や心臓発作などによる心停止・呼吸困難を起こす場面に立ち会うことも十分にあり得ると思います。今回の講習は、そのような緊急事態において患者の安全を守る役割を果たせるための第一ステップだったと思います。この学びを忘れないよう、対処できるようになりたいと思います。





国家試験合格記

第51回生 井町 優花

私は、第32回歯科衛生士国家試験に合格する事ができました。

入学してから、たくさんの事を学んできました。歯・口腔の事だけではなく全身疾患や薬剤、血液や神経まで勉強しました。正直、1年生の頃は何故この分野まで勉強しなければいけないのか、とっていました。2年生では各単元の内容も深まり、歯を磨く事の重要性や指導方法についても学びました。大人になって生活習慣を変えることは非常に難しく、自分でもなかなかできませんが、そこに介入し、患者さんへ適切な指導をする事が私たちの仕事です。患者さんの理解、生活習慣の改善意欲を高めてもらう為には、より深い知識が必要だと分かりました。3年生ではいよいよ実践です。臨床実習先でのある日、同じ疾患の患者さんが2人いて、その2人は違った治療法で治療をされていました。その理由としては、全身疾患や薬剤が関係していました。実務に触れる事で、1年生の頃から歯・口腔以外について学んだ内容が、このような場面で活きるのだと実感しました。

全科目の講義と実習が終わり、本格的に国試対策が始まった12月、模擬試験は合格点に達していませんでした。毎日実習から帰宅し、休む間もなく実習帳提出の事でいっぱいになり、国試勉強に手がつかなかったからだと言いつていましたが、自分の実力不足でした。もともと勉強は苦手でしたが、ずっと頑張ってきたのに点数が上がらない悲しさや悔しさ、焦りが出てきました。そのため、年末からは朝9時から夜の11時まで毎日過去問を解きました。国家試験は過去問から出ない、過去問だけを勉強しても合格できないと何度も言われていましたが、

過去問も解けなかった私は何を勉強したら良いのだろうと思い、私は過去問を徹底的に勉強する事にしました。過去問を解くにあたり、ただ答え合わせをするのではなく、それぞれの選択肢の意味を考えるようにしてみました。選択肢の単語を調べて理解をする事で、初見の問題、違った表現での問題、応用問題にも対応できる事が増えていきました。そして1冊のノートを作り、一度勉強した所はすぐ見直せるよう全て書き込みました。そうする事で調べ直す手間が省け、自分で理解しながら書いた事なので、どんどん記憶に定着していきました。そして国家試験の1ヶ月前、模擬試験で合格点を超える事ができました。私は書かないと覚える事ができませんが、他の子たちは読みながら覚えていたり、私と違う参考書を見ている人もいました。勉強法は人それぞれで、自分の勉強法は合っているのか、詰めが甘く、本番に対応できなかったらどうしようという不安で押し潰されそうな思いでしたが、こんなに頑張っても駄目ならもう仕方ないと思えるようになりました。自分を信じて本番に臨み、無事に合格する事ができました。

この3年間、楽しかった事よりも大変だった事の方が多かったですが、その時はいつも友達にたくさん支えてもらっていました。そして教員や家族にいつも温かく見守っていただき、応援していただいたおかげで今の私があると思っています。一生懸命頑張った事は、自分の自信と成長へと繋がりました。これからは歯科衛生士として、この充実した3年間を励みに頑張っていきたいと思います。

国家試験合格記

第51回生 土居 恋華

私が歯科衛生士を目指したのは、0歳から通院していた歯科医院で不安にならないように声をかけ治療や説明をしてくださった歯科衛生士さんに憧れを持ったのがきっかけです。その後、高齢者に携わる仕事がしたいと思うようになり考えた結果、今後利用する方が増えるだろう訪問歯科衛生士になると決めました。

学院で初めて受けた授業では、聞いたことのない専門用語で溢れ、何が何だかさっぱり理解できなかったことを覚えています。慣れない環境で初めて聞く言葉、授業のスピードに全くついていけなかったため、試験前には友達と放課後の学校で、わからないところを先生に聞き、覚えられないところをルーズリーフにまとめ、繰り返し暗記をして1、2年の試験を乗り越えました。

3年生になり臨床実習本実習が始まると、実習帳の記入や医院で出される課題に追われ、国試勉強をする時間も心の余裕もありませんでした。

長い臨床実習本実習が終わり、国家試験に向けて勉強を始めている友達を見て、焦りと不安があったものの勉強が得意ではなかった私は何から始めたら良いのか分からないまま冬休みに入りました。携帯を見れば友達が遊んでいるSNSが目に入り、羨ましい気持ちにもなりましたが、同じように遊んでは国家試験に合格できないと思い、まずは携帯を手の届かないところに置き、毎日12時間以上勉強机に座り、過去の国試問題と模擬試験を解き、間違えたところや、理解できていない言葉の意味をルーズリーフにまとめました。私は暗記が得意だったため、ルーズリーフに書き出し、その意味や用途などを1つずつ覚え、再度問題を解きました。1月の模擬試験に向けて合格点が取れるように取り組んできましたが、思うような結果に

繋がりませんでした。周りの友達からは、自己採点で合格点を取れたという声が聞こえて、不安になった私は焦って先生に相談し、「夏の麗人」を使用しながら基礎科目をしっかり固めることにしました。覚えられないところはインターネットで検索して語呂合わせを考え、それを紙に書き出し覚えられるようにトイレや洗面台に貼りました。暗記してきたことが模擬試験に出ることが多くなり、1月の2回目の模擬試験ではやっと合格点を超えることができました。

国家試験はあっという間に本番直前を迎え、前日宿泊では講師の先生が試験に出るかもと予想したところを中心に友達と部屋で最終確認をしました。国家試験会場の席は、今まで一緒に勉強してきた友達が横に座っていたため、いつもの模擬試験感覚で試験を受けることができました。試験が始まるまでは手が震え緊張していましたが、試験開始後は試験に集中し、何度も何度もマークミスや記入漏れがないかを確認しました。試験が終わりやっと解放された嬉しさと受かっているかという不安がありましたが、試験翌日、解答速報の自己採点で合格点が取れたとわかった時は本当に嬉しかったです。

国試勉強は人生で1番大変でしたが、ずっと夢だった訪問歯科衛生士として働き始めて4ヶ月が経ち、毎日「ありがとう」と感謝の気持ちを患者様に言ってもらえ、凄くやりがいのある仕事に就けたと心から思います。

これから国家試験を受けられる皆様も今、不安や焦りで心が折れそうになることがあるかもしれませんが、自分に合った勉強方法を考え、受かりたいという強い気持ちを持てば必ず結果がついてくると思います。最後まで諦めず、合格を目指して頑張ってください。



歯科衛生士としての春夏秋冬

国立研究開発法人
国立循環器病研究センター

第17回生 友田 直美

古代中国の五行思想には、人生を色と季節になぞらえて、若年期を「青春」、壮年期を「朱夏」、熟年期を「白秋」、老年期または胎生期を「玄冬」とする考えがあるそうです。

学院に入学して2年間の修業年限が歯科衛生士として芽吹く前（胎生期）の「玄冬」とするのなら、その時代は、単に資格を持ちたいという短絡的な動機で入学したため、学力・実習意欲とも芳しくなく、この仕事は自分に合わないと思鬱な思いで過ごした日々でした。

けれども卒業後、同期の友人から声をかけられて一緒に働いた歯科医院では、尊敬できる歯科医師やスタッフに恵まれ歯科衛生士としてのやりがいを見出すことができました。毎日が本当に楽しく、明日になるのが待てないくらいワクワクしながら勤務していました。あの頃を意欲が芽吹いた「青春」だったと想起します。4年間そこで勤務して「歯科衛生士の資格を使って、もっと幅広く働きたい」という思いに至りました。そこで歯科衛生士養成学校の専任教員となり、足かけ16年専任教員として勤務しました。この時代は学生の頃より何倍も勉強し、学生指導などに多くの時間を費やしました。この時代を意欲盛んな壮年期の「朱夏」とすると、医療人として学ぶ姿勢や様々な年代の方々と関わりを通じて精神的に成長する時期となりました。この頃、両親の他界を機に当時の教科書には載っていない『口腔ケア』について関心を持つようになりました。

今、私は大阪の吹田市にある国立研究開発法人・国立循環器病研究センターで勤務しています。当センターでの業務は主に循環器疾患の患者の周術期口腔機能管理と重篤な循環器疾患の

患者、とりわけ心臓移植待機患者の口腔衛生管理を実施しています。

現在、国内の心臓移植待機期間は4年以上要するといわれています。その間、退院できずに、持続的に強心薬を静脈投与している患者、ベッド上にて安静状態で体外型補助人工心臓装置を付けている患者、退院できても多くの生活制限がある植込型補助人工心臓装置を付けている患者がいます。これらの患者は日々体調の変化があり、口腔を診るだけでなく、全身状態を把握し、多職種と連携しながら、口腔衛生管理をする必要があります。また病棟で終末期の入院患者の口腔衛生管理も実施します。患者から「君が来るのを待っていたんだ」とか、すべての治療が奏功せず、自ら積極的な治療を断念した後も「お口は大切だからね。明日も来てね。あなたにしてもらうのが一番気持ちいいのよ。」と胸が熱くなる言葉をいただくこともあります。今まで培った歯科衛生士の知識と経験が、死に向き合う患者のささやかな支えになっていることに誇りを感じます。

学院に入学してから現在まで歯科衛生士としての人生が今日に繋がっていると実感します。今の「白秋」の時期は、歯科衛生士としての収穫期で『豊穡の秋』です。この後、再び「玄冬」（老年期）を迎えますが、落葉が土壌を豊かにし、新たな季節への橋渡しをするように、次世代の歯科衛生士に引き継げるよう、日々精進していきたいと思います。



わかりやすい講義・説明を目指して

デュールデンタルジャパン株式会社

第49回生 善茂砂 絢

私は2021年に兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院を卒業後、1年2ヶ月済生会兵庫県病院の口腔外科での勤務を経て、現在はデュールデンタルジャパン株式会社に勤めています。

歯科衛生士となって1年目は口腔外科でアシスタント業務を行っていました。私が専門学校3年目の臨床実習はコロナ禍のため見学実習で実際に患者さんの口腔に触れるのは就職してからだったので、日々緊張しながらアシスタントに就いていました。口腔内の水をバキュームで吸引するだけでも、挿入位置や吸引しやすい角度など、患者さんの口腔内によって変わり、なかなか習得できず苦勞しました。習得が遅いながらもオペ室でのアシスタントやバイオブシー検査のオペにつかせていただいたことで、徐々に自信がつかえました。

私は社会人になってから歯科衛生士になったので、今までの社会経験を活かして人に何か伝えていける仕事に就きたいと考えていました。学院に講師として来られる歯科衛生士の方々を通して、歯科衛生士がさまざまな場で活躍されていることを知り、企業で働く歯科衛生士に興味を持ちました。臨床勤務の楽しさも感じられるようになってきたところでしたが、ご縁があってデュールデンタルジャパンに入社しました。

デュールデンタルジャパンはドイツに本社を置く会社で、画像製品、サクションやコンプレッサーといった機器、ハイジーン製品、デンタルケア製品があり、私はハイジーン製品とデンタルケア製品を担当しています。

メーカーで働く歯科衛生士として、デンタルショーや歯科医院、企業、歯科衛生士専門学校などで製品説明やセミナーをさせていただいて

います。出張で日本全国へ行かせていただけることは私の楽しみの1つです。卒業校である兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院で講義をさせていただくこともあり、その度にお世話になった先生方にお会いできる嬉しさがある一方、生徒であった私が講師として前に立たせていただく恥ずかしさで特に緊張します。専門学校では感染対策の講義と、ご使用いただいているデュールの薬液の効果や使い方をご説明しています。講義・説明をさせていただくにあたり、先輩方からドイツでの感染対策の方法を教えていただいたり、教本を確認して知識を深めています。感染対策は大事なことですが、取っつきにくく感じられる内容かもしれません。特に学生の方には臨床での実感が無いために退屈な話になりがちです。興味を持っていただけるよう、動画や写真を多く入れるようにして視覚的に伝わるよう心掛けています。伝えたいことがありすぎて、講義のスピードが早くなってしまったこともあります。つい自分が伝えたいことに集中してしまうのですが、誰に対する説明なのか、聞きたい内容とは何か、どのような資料ならわかりやすいのかを考える重要性を学び、試行錯誤しているところです。反省点を活かし、もっとわかりやすくまた聴きたいと思っただけの講義・説明を目指して、これからも精進していきます。

学院の動き

令和4年度

令和5年

1月

- 5～13日 一般入試（2次）願書受付
- 10日 第6回業者模擬試験（医歯薬）
- 13日 日本歯科衛生教育学会第5回教育活動委員会（Web：小村教務主任）
- 22日 一般入試（2次）
 - 〃 伊丹市歯科医師会新年会（浦出学院長）
- 23日 一般入試（3次）願書受付（～2/3）
 - 〃 第7回業者模擬試験（医歯薬）
- 24日 第10回学院運営協議会
- 27日 日本歯科衛生教育学会教育活動委員会委員会セッション（Web：小村教務主任、肥塚教務副主任）
- 28日 一般入試（2次）合格発表
- 28～29日 令和4年度歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会（篠原専任教員）

2月

- 2日 第8回業者模擬試験（DHS）
- 7日 教員会（卒業審議）
- 12日 一般入試（3次）
- 18日 一般入試（3次）合格発表
- 28日 第11回学院運営協議会

3月

- 1～29日 見学臨床実習（センター：2年生）
 - 〃 見学臨床実習（矯正：2年生）
- 4～5日 第32回歯科衛生士国家試験引率（大阪府：小村教務主任、難波専任教員、清水専任教員）

- 5日 第32回歯科衛生士国家試験
- 9日 教員会（進級審議）
- 11日 51回生卒業証書授与式
- 15日 出張講義：兵庫県立芦屋高等学校（清水専任教員）
- 18日 第14回歯科医療人のためのファシリテータ養成セミナー（小村教務主任）
- 23日 第9回オープンキャンパス
- 24日 第32回歯科衛生士国家試験合格発表
 - 〃 日本歯科衛生教育学会第6回教育活動委員会（Web：小村教務主任）
- 28日 第12回学院運営協議会
- 31日 科目講師退任（竹信俊彦、内橋賢二、榊原晶子、新庄文明、人見さよ子、佐伯直哉、駒井 正、川邊睦記）

令和5年度

令和5年

4月

- 1日 科目講師就任（山本信祐、笥 康正、山下淳也、西村貴子、神前圭吾、砂治国隆、武田大介、大森雄司）
- 10日 54回生入学式
- 11～24日 プレ臨床実習（2年生）
- 16日 第1回オープンキャンパス
- 25日 第1回学院運営協議会
- 28日 学生健康診断

5月

- 11日 臨床実習指導歯科衛生士打合せ会
 - 〃 科目・臨床実習連絡会
- 13日 第2回オープンキャンパス
- 16日 クリニカルトレーニングセレモニー

- 18日 全国歯科衛生士教育協議会60周年
記念式典・令和5年度総会（東
京都：浦出学院長）
- 23日 第2回学院運営協議会
- 25日 学院全体交流会

6月

- 1～22日 各地区「歯と口の健康週間行事」
小集団指導実習（2年生）
- 1～28日 第1期臨床実習本実習
（3年生）
- 3日 日本歯科衛生教育学会2023年度
第1回常任理事会・第1回理事
会（Web：小村教務主任）
- 4日 歯と口の健康フェア（川西市：
高橋理事、浦出学院長、肥塚教
務副主任、難波専任教員、清水
専任教員、平野専任教員）
- 11日 第3回オープンキャンパス
- 13日 第3回学院運営協議会
- 15日 こうべ市歯科センター歯科衛生士
養成機関との連絡会（長田区：角
田専任教員）

7月

- 3～28日 第2期臨床実習本実習
（3年生）
- 4日 第4回学院運営協議会
- 5日 研修旅行（京都方面：1年生）
- 9日 第4回オープンキャンパス
- 22日 大阪歯科大学兵庫県同窓会会員家
族大会（中央区：清水谷学院長）
- 25日 第5回学院運営協議会
- 〃 第5回オープンキャンパス
- 28日 第33回近畿北陸地区歯科衛生士
教育協議会（滋賀県：清水谷学
院長、小村教務主任）
- 31日 歯科衛生士専任教員講習会Ⅰ
（難波専任教員）（～8/4）

8月

- 1日 第1回業者模擬試験（DHS）
- 3日 第6回オープンキャンパス
- 7日 子ども食堂打合せ（中央区：小
村教務主任、難波専任教員）
- 9日 兵庫県歯科衛生士養成機関専任
教員協議会（西宮市：小村教務
主任、肥塚教務副主任、角田専
任教員、難波専任教員、山下専
任教員、篠原専任教員、清水専
任教員、岩城専任教員、平野専
任教員）
- 20日 第7回オープンキャンパス
- 21日 DHS 夏期講座
- 22日 第6回学院運営協議会
- 24日 第2回業者模擬試験（医歯薬）
- 26日 近畿北陸地区歯科医師会会立教
育施設担当者連絡協議会
- 28日 歯科衛生士専任教員講習会Ⅲ
（肥塚教務副主任）（～9/1）
- 30～31日 日本歯科衛生教育学会第2回教
育活動委員会（小村教務主任）

9月

- 1～15日 AO入試（専願・一般）願書受付
- 1～28日 第3期臨床実習本実習
（3年生）
- 5日 「2023口腔保健のつどい」連絡
協議会（明石市：角田専任教員）
- 10日 第8回オープンキャンパス
- 26日 第7回学院運営協議会

10月

- 1日 AO入試（専願・一般）
- 〃 各地区「いい歯の日行事」公衆
衛生活動（2年生）（～11/26）
- 2～13日 推薦入試（1次）願書受付
- 2～20日 指定校推薦入試願書受付
- 2～27日 第4期臨床実習本実習
（3年生）

- 7日 AO入試(専願・一般)合格発表
- 10日 施設実習事前打合せ(長田区:
平野専任教員)
- 13日 デュールデンタルジャパン50周年記念イベント「オクトーバーフェス」(中央区:小村教務主任)
- 17日 第8回学院運営協議会
 - ♪ 消防訓練
- 19日 施設実習事前打合せ(垂水区:
平野専任教員)
- 29日 推薦入試(1次)／指定校推薦入試
 - ♪ 第12回兵庫県県人会(大阪府:
清水谷学院長)
- 31日 第3回業者模擬試験(医歯薬)

11月

- 1日 障害者施設実習(3年生)
(~12/5)
 - ♪ 高齢者施設実習(3年生)
(~12/5)
- 3日 推薦入試(1次)／指定校推薦入試合格発表
- 6日 ひょうご専門学校フェスタ事前打合せ(神戸市:角田専任教員、清水専任教員)
- 6~17日 推薦入試(2次)願書受付
一般入試(1次)願書受付
- 7~8日 研修旅行(東京方面:2年生)
- 14日 日本歯科衛生教育学会第3回教育活動委員会(Web:小村教務主任)
- 17日 第4回業者模擬試験(医歯薬)
- 18日 ひょうご専門学校フェスタ
(神戸市:山下専任教員、清水専任教員、平野専任教員)
- 25~26日 歯科衛生士専任教員講習会V(角田専任教員)
- 28日 第9回学院運営協議会

- 28日 日本歯科衛生教育学会2023年度評議会・会員総会(Web:小村教務主任)
- 30日 神戸看護専門学校との学生間交流打合せ(中央区:小村教務主任、肥塚教務副主任、難波専任教員)

12月

- 1日 日本歯科衛生教育学会教育活動委員会(東京都:小村教務主任)
- 2~3日 第14回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会(東京都:小村教務主任)
- 3日 推薦入試(2次)
一般入試(1次)
- 9日 推薦入試(2次)合格発表
一般入試(1次)合格発表
- 19日 第10回学院運営協議会
- 20日 出張講義:兵庫県立神戸甲北高等学校(肥塚教務副主任)
- 21日 第5回業者模擬試験(DHS)
 - ♪ 出張講義:姫路市立飾磨高等学校(岩城専任教員)
- 24日 With キッズオープンキャンパス

学院運営協議会記録

令和4年度

第10回学院運営協議会 令和5年1月24日(火)
午後1時30分

協議事項

1. 令和4年度卒業証書授与式について
2. 新型コロナウイルス感染症対策について
3. その他

第11回学院運営協議会 令和5年2月28日(火)
午後1時30分

協議事項

1. 令和4年度卒業証書授与式について
2. 令和5年度入学式について
3. 新型コロナウイルス感染症対策について
4. その他

第12回学院運営協議会 令和5年3月28日(火)
午後1時30分

協議事項

1. 令和5年度入学式について
2. 令和5年度科目講師について
3. 科目・臨床実習連絡会について
4. 新型コロナウイルス感染症対策について
5. その他

令和5年度

第1回学院運営協議会 令和5年4月25日(火)
午後1時30分

協議事項

1. 令和5年度臨床実習講師について
2. 科目・臨床実習連絡会について
3. 社会人学び直し支援事業について
4. クリニカルトレーニングセレモニーについて
5. 学院全体交流会について
6. 学業奨励について
7. 令和5年度指定校推薦について
8. その他

第2回学院運営協議会 令和5年5月23日(火)
午後1時30分

協議事項

1. 社会人学び直し支援事業について
2. 指定校推薦入試の見直しについて
3. 令和4年度学院会計収支計算書について
4. その他

第3回学院運営協議会 令和5年6月13日(火)
午後4時

協議事項

1. リクルート DMの提案について
2. その他

第4回学院運営協議会 令和5年7月4日(火)
午後1時30分

協議事項

1. 運営協議会の進行について
2. 兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院運営協議会の機構について
3. 令和5年度年間行事予定について
4. その他

第5回学院運営協議会 令和5年7月25日(火)
午後3時30分

協議事項

1. 近畿北陸地区歯科医師会会立教育施設担当者連絡協議会について
2. 2024年度入試審査基準について
3. その他

第6回学院運営協議会 令和5年8月22日(火)
午後1時30分

協議事項

1. 近畿北陸地区歯科医師会会立教育施設担当者連絡協議会について
2. 指定校推薦について
3. その他

第7回学院運営協議会 令和5年9月26日（火）
午後1時30分

協議事項

1. 令和6年度事業計画について
2. その他

第8回学院運営協議会 令和5年10月17日（火）
午後1時30分

協議事項

1. 令和7年入学者入学試験日程について
2. 令和6年度オープンキャンパス日程について
3. 令和6年度歯科材料取扱業者について
4. 令和6年度事業計画について
5. 令和6年度学生募集対策について
6. その他

第9回学院運営協議会 令和5年11月28日（火）
午後1時30分

協議事項

1. 令和7年入学者入学試験日程について
2. 令和6年度オープンキャンパス日程について
3. 令和6年度学生募集対策について
4. その他

第10回学院運営協議会 令和5年12月19日（火）
午後3時30分

協議事項

1. 令和7年入学者入学試験日程について
2. 令和6年度学生募集対策について
3. 令和6年度予算について
4. 令和6年度歯科材料取扱業者について
5. 令和6年度行事予定について
6. その他

兵庫県下郡市区歯科医師会



ぜひ一度ご覧下さい 兵庫県歯科医師会 ホームページ <https://www.hda.or.jp/>

番号	郡市区名	ホームページアドレス	会員数	医療機関数
1	東灘区歯科医師会	https://www.kobe418.jp/higashinada/	157	123
2	灘区歯科医師会	http://www.nadashi.net/	103	84
3	中央区歯科医師会	https://chuoku8020.jp/	167	129
4	兵庫区歯科医師会	https://hyogoku-dental.jp/	67	54
5	長田区歯科医師会	https://nda-kobe.com/	75	56
6	須磨区歯科医師会	https://www.kobe418.jp/suma/	84	70
7	垂水区歯科医師会	https://www.th-jp.com/	108	88
8	北区歯科医師会	https://www.kitadental.jp/	101	85
9	西区歯科医師会	http://www.kobe249shikaishikai.com/	90	78
10	尼崎市歯科医師会	http://www.ada.or.jp/	237	189
11	西宮市歯科医師会	https://www.ndajp.com/	272	217
12	伊丹市歯科医師会	https://www.itamident.jp/	113	88
13	川西市歯科医師会	http://www.kda8020.com/	80	59
14	三田市歯科医師会	https://sanda-dental-association.org/	47	41
15	宝塚市歯科医師会	https://tda8020.jp/	128	103
16	芦屋市歯科医師会	https://ashiyadental.or.jp/	70	57
17	明石市歯科医師会	https://www.ada135.or.jp/	162	128
18	三木市歯科医師会	https://mikishi-shikaishikai.com/	43	35
19	小野加東歯科医師会		41	35
20	西脇市・多可郡歯科医師会		31	24
21	加西市歯科医師会		26	15
22	播磨歯科医師会	https://harimadent.jp/	182	157
23	姫路市歯科医師会	https://www.himedent.org/wp/	320	254
24	神崎郡歯科医師会		19	17
25	揖龍歯科医師会	http://8020da.com/	48	40
26	宍粟市歯科医師会		16	12
27	相生・赤穂市郡歯科医師会	http://www.a3da.jp/	46	40
28	佐用郡歯科医師会		10	4
29	丹波篠山市歯科医師会	https://tanbasasayama-dental.com/	18	15
30	丹波市歯科医師会	https://tanbadental.com/	34	29
31	南但歯科医師会		26	21
32	豊岡市歯科医師会	http://www.hda-toyooka.jp/	33	26
33	美方郡歯科医師会	http://mikatagun8020.web.fc2.com/	15	14
34	洲本市歯科医師会		27	20
35	淡路市歯科医師会		32	24
36	南あわじ市歯科医師会		26	23
37	無所属		7	0
合計			3061	2454

あ と が き

この一年も大きな出来事が国内外で起こりました。

日本では、新型コロナウイルス感染症が2類から5類へと引き下げられ、日常の生活が戻りつつある中、いまだに続くロシアによるウクライナ侵攻、そして新たにイスラムとパレスチナ間の問題、平和な日本にいる者にとっては報道でしか知るすべがないところですが、実際は想像もつかないことが起こっているであろうと思う。

そして、気持ちも新たに新年を迎えましたが、悪夢を思い出す能登半島地震に羽田空港での旅客機接触事故が発生し、本当に気が重いスタートとなりました。

国内ではプロ野球の“A.R.E”をはじめとするスポーツ界が色々と明るい話題で盛り上げてくれ、極めつけは何と言っても MLB における日本選手二人の移籍である。

一方、県下の歯科界においては、歯科衛生士学科が新設されました。言い換えれば必要不可

欠な分野の証でもある。AI による歯科衛生士の展望では、まだまだ有望で期待の持てる職業であると予測されている。

18歳人口が減少する中、どう対応していくかが大きな課題であり、社会人からのスキルアップや離職者のための支援が重要であると思われる。長年離職していても、専門性の高い国家資格なので、歯科治療以外の現場から必要とされる社会になりつつある。特に「予防」の中の「口腔ケア」の重要性がますます増えると考えられ、今後の皆様方の協力なくしては、この長寿社会を支えていけないので、より一層のご尽力をお願いしたいところです。

最後になりましたが、投稿いただきました皆様にお礼申し上げます。 (赤松 正広)

編集委員長	赤松 正広	
編集委員	荻田 雄紀	岩城万希子
	平野 直子	大風 裕美

* * *

表紙写真説明

「ベゴニア」

加西フラワーセンターの水槽に浮かぶ色とりどりのベゴニア。

緩やかな水の流れに乗り仲良く浮かぶ様は平和そのもの。

ベゴニアの花言葉は「幸福な日々」「親切」「愛の告白」などです。

澤田 隆

兵庫歯科衛生士学院誌 47巻

令和6年2月29日 発行

発行所 兵庫県歯科医師会附属
兵庫歯科衛生士学院

郵便番号650-0003

神戸市中央区山本通5丁目7番18号

TEL (078) 351-4188

FAX (078) 351-2828

印刷所 日昌印刷株式会社

